

TDCG

東京歯科大学同窓会会報

1981年8月 第202号

東京歯科大学同窓会会報 第202号

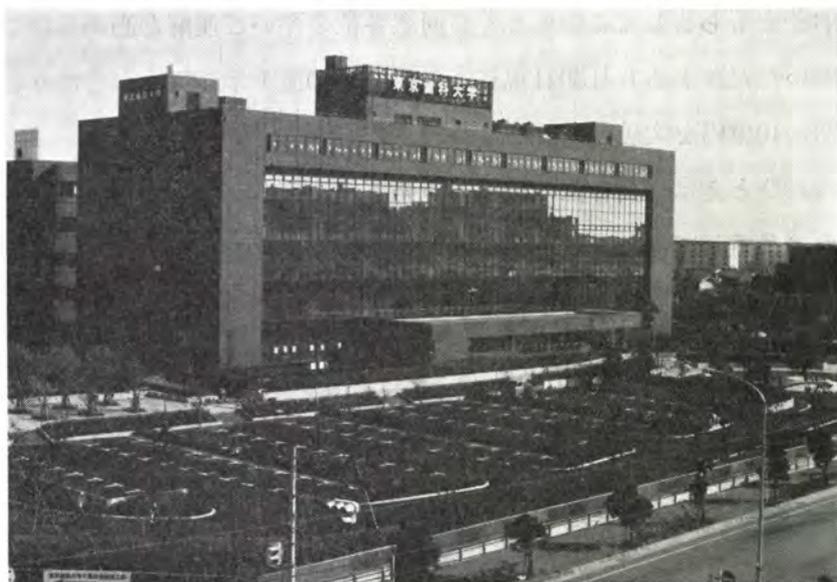
目次

同窓会創立80周年記念募金目標を突破……………	i・ii
巻頭言……………	1
お知らせ……………	2
本部短信……………	3～4
逝去会員……………	5
母校だより……………	6～9
カロリンスカ大学歯学部との 姉妹校協定調印なる……………	10
座談会—千葉校舎に期待する……………	11～22
支部のうごき……………	23～24
クラス会だより……………	25～35
すいどうばし……………	36～39
へんしゅうこうき……………	40

(表紙・カット 菊池 豊)

同窓会創立80周年記念募金 目標10億円を突破

祝



謝

同窓会員各位

東京歯科大学同窓会

会長 河邊 清治

謹啓 時下益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

同窓会員各位には、平素より本会事業発展のため絶大なるご高配をいただき厚くお礼申し上げます。

さて同窓会創立80周年記念事業の一環として東京歯科大学施設整備資金の一部にあてるべく、「目標額10億円」の記念募金を昭和54年7月1日より開始以来、会員各位にはこの目標額達成のため献身的なご尽力を賜りました。

お蔭をもちましてこの度多くの同窓各位の深いご理解と心からのご賛同をいただき去る6月30日現在「入金総額10億1千万円余」となり、目標額の10億円を突破いたしました。

これひとえに会員各位の母校愛の発露によるものと、ここに現況報告かたがた重ねて深甚なる謝意を表する次第であります。

時節がらご健勝をお祈り申し上げます。

敬 具

記

- | | |
|----------------|----------------|
| (1) 寄付金申込受付会員数 | 4,631名 |
| (2) 寄付金入金総額 | 1,011,694,000円 |

(6月30日現在)

卷頭言

吾等の殿堂愈々完成す

名誉会長 井上 眞

千葉県稲毛海浜に近く、吾等の母校、東京歯科大学千葉校舎は遂に完成しました。

思えば昭和47年以来正に10年の歳月と170余億円の巨費を投じて、現代建築学の粋を集めた、ユニーク而も豪華絢爛、世界一流の歯学教育機関は今正に吾等の眼前に出現したのであります。

而も建設の設計、施行に当られましたのは是れ又我国一流の建設会社鹿島建設株式会社であります。鹿島理事長、松宮学長、高木副学長を始め、建設の掌に当られた先生方の御喜びは如何ばかりでありましょう。

此の世紀の偉業は、東京歯科大学同窓会、父兄会を始め教職員全員の一致協力の結晶であります。延面積約16,000坪が3万坪の校地の中に建てられています。表玄関とも云ふ可き6階建の病院棟、臨床管理棟、実習講義棟、基礎棟、図書館、厚生棟、進学棟、講堂、体育館、動物舎、部室合宿所等、誠に整然たる配置であります。野球場、トラック

は間もなく完成の予定です。

誠に至れに尽せりの施設であります。暑中休暇を利用して引越完了。9月始めより新キャンパスに於て授業開始の段取であります。

同窓会80周年の記念基金の募集も、多数同窓の理解と御協力に依り予定の10億を超過する盛況を得ました事は誠にご同慶にたえません。この資金も今や正に校庭の樹木と化し、緑滴たる風情を添えているのであります。今に稲毛海岸、「東京歯科大学の森」として野鳥の住み附く森になる事でしょう。

この理想的環境にある母校東歯に学ぶ学生の幸福はいかばかりでありましょう、幾多の英才の育成されるは必定であります。

吾等の師祖、血脇守之助先生のみ霊よ来りて此の吾等のキャンパスをご照覧あれ、と声高らかに叫び度いのであります。

お知らせ

○ **第214回東京歯科大学学会総会**（千葉校舎竣工記念学会）

と き 昭和56年11月5日（木）

ところ 東京歯科大学 千葉校舎

○ **昭和56年度歯科大学同窓会評議員会・総会・懇親会**

と き 昭和56年11月6日（金）

ところ 高輪プリンスホテル

○ **東京歯科大学千葉校舎竣工式ならびに祝賀会**

と き 昭和56年11月7日（土）

ところ 東京歯科大学 千葉校舎

○ **東京歯科大学創立90周年記念式典ならびに祝賀会**

と き 昭和56年11月8日（日）

ところ 東京歯科大学 千葉校舎

○ **東京歯科大学同窓会第10回ゴルフ大会**

と き 昭和56年11月13日（金）

ところ 袖ヶ浦カントリークラブ袖ヶ浦コース

まだ申込みをされていない方は、7頁の参加申込書をお使い下さい。

本部短信

1) 行事出張, その他

- 6月1日 卒後研修特別委員会(企画作業小委員会)
- 4日 西多摩支部懇談会 河邊会長, 福本理事出張
- 7日 東京地域支部連合会臨時総会 河邊会長出張
- 9日 卒後研修特別委員会(企画委員会)
- 13日 信越地域支部連合会総会 河邊会長菊池, 清水理事出張
- 13日 東北地域支部連合会総会 板垣副会長, 福本, 嶋中理事出張
- 15日 卒後研修セミナー(モニターリング小委員会)
- 15日 広報部委員会(編集委員会)
- 15日 学術部委員会(進学指導セミナー担当)
- 16日 役員打合会(副会長, 総務担当理事)
- 17日 麻布赤坂支部懇談会 中久喜, 津島理事出張
- 20日 卒後研修セミナー(第6回)
- 20日 福島県支部総会 安嶋副会長出張
- 21日 埼玉県支部総会 伊丹副会長出張
- 22日 役員打合会(会長, 副会長, 総務, 渉外, 学術担当理事)
- 24日 常任理事会
- 25日 学術部委員会
- 27日 静岡県支部総会 井上名誉会長, 阿部副会長出張
- 27日 北海道地域支部連合会総会 板垣副

会長, 松川理事出張

- 27日 新潟大学歯学部同窓会10周年記念式典 清水理事参列
- 6月27日 名誉会員故佐々木重衛門氏葬儀 井上名誉会長列席
- 27日 秋田県支部総会 杉山理事出張
- 30日 卒後研修特別委員会(合同)
- 7月3日 学術部委員会(進学指導セミナー担当), 講師との打合会
- 4日 理事会
- 7日 大学教員懇談会 河邊会長出席
- 10日 卒後研修特別委員会(企画小委員会)
- 11日 卒後研修セミナー(最終日閉講) 河邊会長出張
- 13日 広報部委員会(編集委員会)
- 18日 愛媛県支部総会 河邊会長出張
- 21日 常任理事会

2) 支部長交替

(交替日)

- 葛飾支部 桜井 善行(昭18.9卒) 56. 4. 1
福岡県支部 原田 忠彦(昭24.3卒) 56. 6. 1

昭和56年春の叙勲に当り, その榮譽に下記の先生が浴されました。心からお祝い申し上げます。おかげで会報への掲載が遅れましたことをお詫びいたします。

(自治庁関係)

勲四等瑞宝章 掛場久精氏(北海道旭川市)

同窓会員各位

東京歯科大学同窓会

会長 河邊清治

—第9回進学指導セミナー開催中止について—

光輝ある歴史と伝統を世界に誇る東京歯科大学の学界における権威と社会から享受している高い評価は、私たち同窓の矜持であります。

当然のことながら東京歯科大学入学への扉はその厳しい教育を受容しうる学力にしたがって開かれ、公正な入学試験が難関とされていることも衆知の事実です。

東京歯科大学同窓会は、昭和48年に進学指導セミナーを開講し、東歯大進学を志向する子弟が自らの力でその志望が遂げられるよう、爾来、高校における単位選択、基礎学力の充実をはかる効率的な学習法を助言指導して参りました。更に模擬試験により学習到達度に関する自己評価の資料を提供するなど、一方では歯科医師の社会的責務についての認識と理解をもとめて、受験生としての自覚をうながすと同時に、強固な意志形成につながるよう授業内容には細心の配慮を加え、あわせて第三者による批判の対象とならないよう留意しながら公正な運営をはかり、本セミナーを8年間にわたって主催してきました。

その結果、多くの受講者のなかから約600名が宿願を果たし、そのうち約100名が既に新進気鋭の歯科医師として社会に巣立っています。

このセミナーは大学とは全く別個の組織であり親睦団体である同窓会によって企画運営され、こ

の事業については大学当局との間にいかなる協力関係も存在せず、一切のかかわりもありません。

したがって、入学試験に際しこの受講に対していかなる特典も与えられていないことは既に受講された各位をはじめ関係者がひとしく知るところであり、主催者が絶えず明示明言し入学試験の公正に反しないことを確信して本事業の継続をはかってきました。

然しながら昨今の医歯系大学入試をめぐる世論と社会の関心は異常なまでに昂まり、発足当時にくらべ、本事業の継続が事実と反する疑惑をうけ不当な誤解を招来することが危惧される社会環境に変化してきたことも事実であります。

さらに残念なことには過日、この事業に関し事実を歪曲し、悪意に満ちた報道が某新聞によって大々的に伝えられ、皆様方にご迷惑をおかけしたのは甚だ遺憾であります。

本会としてはこのような社会的客観情勢をふまえ、また関係方面の意向も勘案し慎重審議した結果第9回セミナーの開催中止を自主的に決断いたしました。突然の開催中止を皆様へ報告しなければならないことは遺憾の極みであり、お詫びの言葉もみつかりません。何とぞこの間の事情をご諒察いただきたくお願い申し上げる次第です。

下記の会員が逝去されました。ここに謹んで哀悼の意を表し
心からご冥福をお祈り申し上げます。(敬称略・届出順)

●昭 2 卒 世田谷支部	江 藤 財 吉 (77才) 〒156 世田谷区桜上水4-1-5-103		56. 5. 15
●昭 2 卒 淀橋支部	壽 谷 良 雄 (79才) 〒161 新宿区下落合1-535	心 不 全	56. 5. 27
●医 学 校 兵庫県支部	中 川 周 三 (82才) 〒665 宝塚市川面3-24-15		56. 5. 3
●大 12 卒 横浜中央支部	宮 本 廉 二 (80才) 〒231 横浜市中区新山下町1-6-23	膀 胱 癌	56. 5. 29
●昭 6 卒 茨城県支部	中 村 忠 雄 (72才) 〒301 竜ヶ崎市大徳町613	交 通 事 故	56. 5. 30
●大 14 卒 茨城県支部	清 水 東 三 (81才) 〒319-15 茨城県北茨城市磯原町仲町801		56. 5. 27
●昭 9 卒 川崎支部	福 島 孝 雄 (69才) 〒213 川崎市高津区子母口54	肝 臓 癌	56. 6. 4
●昭 18.9 卒 石川県支部	近 岡 恒 雄 (59才) 〒921 金沢市泉3-3-17	胃 癌	56. 6. 6
●昭 9 卒 石川県支部	中 田 尚 (70才) 〒921 金沢市額谷3-135	糖尿病性腎症	56. 6. 8
●推 薦 熊本県支部	中 川 熊 雄 (65才) 〒860 熊本市魚屋町1-26		56. 6. 17
●医 学 校 東三河支部	中 野 正 甫 (85才) 〒440 豊橋市松葉3-92	老 衰	55. 3. 17
●医 学 校 京橋支部	佐々木 重衛門 (86才) 〒156 世田谷区松原町6-19-9	心 不 全	56. 6. 25
●昭 7 卒 鳥取県支部	熊 野 千太郎 (76才) 〒682 倉吉市西町2, 862	再生不良性貧血	56. 6. 29
●推 薦 京都支部	山 口 周 一 (83才) 〒623 綾部市仲町1-16-2		56. 7. 1
●推 薦 空知支部	土 岐 実 (69才) 〒069-14 北海道夕張郡長沼町中央長沼1. 142		56. 7. 4
●大 8 卒 岐阜県支部	新 井 守 三 (86才) 〒500 岐阜市明德町 1		56. 5. 23
●推 薦 岐阜県支部	加 藤 正 明 (80才) 〒504 各務原市那加町東那加町 7	老 衰	56. 4. 7
●推 薦 福岡県支部	藤 村 義 人 (84才) 〒038-03 甘木市甘木1, 877-3	老 衰	56. 6. 22

母校だより

人事その他

A. 教育職員関係

(辞職)

助 教 授	鈴木 三夫 (市病整形外科)	56. 1. 31
〃	永井 教之 (病理Ⅰ)	56. 3. 31
〃	成田 むつ (保存Ⅱ)	56. 3. 31
講 師	佐藤 誠 (衛生)	55. 9. 30
〃	杉崎 正志 (口・外Ⅱ)	55. 12. 31
〃	佐久間正迪 (市病耳鼻科)	56. 1. 31
〃	二木 昇人 (保存Ⅰ)	56. 2. 28
〃	寺尾 導子 (病理Ⅱ)	56. 3. 31
〃	杉原 惇 (小児歯)	〃
〃	吉田 昊哲 (〃)	〃
〃	川端 輝彦 (口・外Ⅰ)	〃
〃	大根 光朝 (〃)	〃
〃	間 滋夫 (稲 診)	〃
〃	高宮紳一郎 (補綴Ⅱ)	〃
〃	松井 恭平 (保存Ⅲ)	〃
〃	宗像 昭夫 (生 理)	〃
〃	橋田 薫 (保存Ⅰ)	56. 4. 30
助 手	塩崎 昭美 (保存Ⅱ)	55. 11. 30
〃	田崎 憲一 (市病整形外科)	〃
〃	後藤 文崇 (保存Ⅱ)	55. 12. 31
〃	青木 淳 (矯 正)	〃
〃	大関 久通 (口・外Ⅱ)	56. 1. 31
〃	中村 孝 (小児歯)	56. 3. 31
〃	伴場せつゑ (〃)	〃
〃	中尾 誠 (矯 正)	〃
〃	佐久間重雄 (補綴Ⅲ)	〃
〃	蛸谷 剛文 (〃)	〃
〃	椎貝 達夫 (〃)	〃
〃	杉浦 正人 (保存Ⅲ)	〃
〃	沢辺 治 (歯 麻)	〃
副 手	佐野富早子 (組 織)	〃
〃	斉藤 悦子 (解 剖)	〃
助手補	山村 晋一 (歯 放)	〃
講 師	菅野 寿美 (歯科衛生士 専門学校)	〃

(昇任)

助手より 講師へ	富田美佐子 (衛 生)	55. 10. 16
講師より 助教授へ	川口 充 (薬 理)	56. 4. 1
〃	小林 博 (市病歯科)	〃
助手より 講師へ	山田 茂子 (保存Ⅱ)	35. 12. 1
〃	大田 功正 (微生物)	56. 4. 1
〃	酒井 康友 (病理Ⅱ)	〃
〃	須田 希 (小児歯)	〃
〃	山口 雅庸 (口・外Ⅰ)	〃
〃	有坂はる子 (理 工)	〃
〃	大串 卓 (保存Ⅲ)	〃
〃	伊東 哲 (歯 麻)	〃
副手より 助手へ	宮本 時男 (組 織)	〃
(採 用)		
助 手	国分 敏行 (補綴Ⅱ)	〃
〃	小船 邦夫 (〃)	〃
〃	堀 正樹 (保存Ⅲ)	55. 10. 6
〃	高野 伸夫 (口・外Ⅱ)	55. 11. 16
〃	小川 克昌 (歯 麻)	55. 11. 16
〃	和田 大海 (保存Ⅱ)	55. 12. 1
〃	八百枝正樹 (〃)	〃
〃	大串 勉 (〃)	〃
〃	松本 昇 (市病整形外科)	〃
〃	石井 裕一 (薬 理)	55. 12. 16
〃	大川 恭子 (保存Ⅰ)	〃
〃	野々山 進 (市病歯科)	〃
〃	杉山 公夫 (〃)	〃
講 師	河田 英司 (理 工)	55. 10. 1
〃	鶴木 隆 (口・外Ⅱ)	56. 1. 1
助 手	近藤 淳一 (稲毛歯診)	56. 1. 16
〃	宇佐美孝之 (〃)	〃
〃	矢島 俊助 (〃)	〃
講 師	高橋 正憲 (市病整形外科)	56. 2. 1
〃	登坂 仁 (市病耳鼻科)	〃
助 手	篠田 伸正 (〃)	〃
講 師	田中丸治宣 (小児歯)	56. 4. 1
助 手	山根 紀子 (〃)	〃
〃	小杉 和子 (〃)	〃
〃	得 由美子 (〃)	〃
〃	田邊 公子 (口・外Ⅰ)	〃

母校だより

助手	井出 愛周 (口・外Ⅰ)	56. 4. 1	(海外出張延期)	
"	島 秀一 (保存Ⅰ)	"	講師 柳沢 孝彰 (病理Ⅰ)	56. 4. 1~ 56. 5. 31
"	瀬畑 悦子 (矯正)	"	" 佐々木脩浩 (微生物)	56. 5. 1~ 56. 12. 31
"	安達 純 (")	"	昭和56年度専門課程学年主任・副主任	
"	内藤 祐子 (微生物)	"	第1学年主任 山村武夫教授 副主任 小池平一郎講師	
"	松田 康男 (口・外Ⅰ)	"	" 玉井 久貴講師	
"	鈴木 洋一 (")	"	第2学年主任 坂田三弥教授 副主任 井出吉信助教授	
"	前川 成男 (保存Ⅰ)	"	" 森田 正純講師	
副手	須山 祐之 (衛生)	"	第3学年主任 町田幸雄教授 副主任 伊藤彰人助教授	
助手補	上村 早苗 (組織)	"	" 斉藤 文明講師	
(休 職)			" 田中丸治宣講師	
助手	小川 克昌 (歯 麻)	55. 11. 16~ 59. 9. 30	第4学年主任 瀬端正之教授 副主任 重松知寛助教授	
講師	高橋 義一 (口・衛)	55. 12. 1~ 56. 6. 30	" 根岸 康雄講師	
"	山口 雅庸 (口・外Ⅰ)	56. 4. 1~ 国立東京第二病院へ出張のため	" 平井 義人講師	
(復 職)			医局長交代 (昭56. 3. 1付)	
助手	伊東 哲 (歯・麻)	55. 10. 1	小児歯科 新任 細矢由美子 講師	
講師	小池平一郎 (病理Ⅱ)	56. 2. 17	旧任 杉原 惇 "	
"	山根 源之 (口・外Ⅰ)	56. 4. 1	(昭56. 4. 1付)	
非常勤講師			口腔外科 新任 柿沢 卓 講師	
(継続と新任)	金子 晃 (法 学)	55. 10. 1	旧任 大根 光朝 "	
"	林 甫 (補綴Ⅰ)	"	保存科 新任 宇井 洋夫 講師	
"	森谷 秀樹 (稲毛歯診)	"	旧任 榎石 武美 "	
"	淵野 智弘 (小 歯)	55. 11. 16	教室幹事交代	
"	瀬畑 悦子 (矯正)	"	微生物学教室 (55. 9. 1付)	
"	新井 康廣 (")	"	新任 助教授 奥田 克爾	
"	青木 淳 (矯正)	56. 1. 1	旧任 講師 佐々木 脩	
"	斉藤 篤 (保存Ⅰ)	56. 4. 16	解剖学教室 (55. 11. 1付)	
"	二木 昇人 (")	"	新任 講師 四家 秀雄	
(辞 職)	阿久澤利明 (法 学)	55. 9. 30	旧任 助教授 井出 吉信	
			(昭56. 4. 1付)	

キ.....リ.....ト.....リ.....線.....

第10回 同窓会全国ゴルフ大会参加申込書

所属支部名 _____ 氏 名 _____ 卒業年度 _____

住 所 〒 _____ TFL () _____

生年月日 _____

会費24,000円也を添え申込みます。

母校だより

生理	新任	山本 哲	講師		微生物	森山 徳長	中村 正夫	46. 4. 1
	旧任	宗像 昭夫	〃		〃	小幡 哲夫	吉田 千里	〃
口腔衛生	新任	松久保 隆	助教授		薬理	木津 弘司	伊藤 博夫	〃
	旧任	五十嵐康夫	助手		〃	中井 一仁	増田 紀男	〃
組織	新任	平山 明彦	助手		〃	後藤 和義	石塚 嗣郎	〃
	旧任	上松 博子	講師		〃	松本 仁人		〃
病理Ⅰ	新任	沢田 隆	助手		理工	佐藤 敏治	市川 明彦	〃
	旧任	永井 教之	助教授		〃	櫻井 善忠	若井 永	〃
病理Ⅱ	新任	酒井 康友	講師		〃	松本 義敏	眞坂 信夫	〃
	旧任	田中 陽一	〃		〃	松本 信彦	五十嵐俊男	〃
非常勤講師 (継続と新任)					〃	河野 暢夫	中西 哲生	〃
解剖		市川 公一	鹿島 隆雄	56. 4. 1	衛生	吉田 浩	河合 正計	〃
〃		武石 醇作	若月 英三	〃	〃	石井 俊文	森 崇	〃
〃		野坂洋一郎	滝口 励司	〃	〃	上野 真人	小西 保	〃
〃		橋本 淳	宮地 建夫	〃	〃	大橋 和夫	佐藤 誠	〃
組織		木村 亮治	高橋 勝哉	〃	口腔衛生	高橋 一夫	佐藤 貞勝	〃
〃		小島 薫正	福田 弘一	〃	〃	大槻 晃	長島 暲	〃
生理		伊藤秀三郎	大久保信一	〃	〃	竹山 敬始	川越 武久	〃
〃		大御 雅文	谷本 義文	〃	法 歯	野田金次郎	古江 忠雄	〃
〃		相田 英孝		〃	〃	遠井 政宏	飯田 慶治	〃
生化学		鈴木 龍太	宇野沢 璋	〃	〃	トーマス・T・野口		〃
〃		杉山 勉	井上 好平	〃	〃	木村 康	岡田 一郎	〃
〃		樋出 守世		〃	社会歯科	佐々木達夫	藤村 豊	〃
病理Ⅰ		近藤 三郎	大沢 和一	〃	〃	井上 裕	本村 静一	〃
〃		山口 昭	古井 瞭	〃	アイソトープ研究室	入船 寅二		〃
〃		関口 恵造	桑名 泰彦	〃	保存Ⅰ	森本 優	渡辺 郁馬	〃
〃		百束 尚彦	相原誠一郎	〃	〃	山岸 昭平	田上 隆弘	〃
病理Ⅱ		村上 恵一	玉沢 昭	〃	〃	大塚 弘介	中村 靖夫	〃
〃		山根 瞳	柳澤勇喜夫	46. 4. 1	〃	小杉 国武	黒田 政俊	〃
〃		森村 儀一	芦田 和郎	〃	〃	森岡 俊介	松井 啓之	〃

キ.....リ.....ト.....リ.....線.....

第10回ゴルフ大会参加者

通 信 欄

母校だより

保存Ⅱ	青木 栄夫	高橋 利武	46. 4. 1	矯正	市之川正孝	菊池 哲	56. 4. 1
〃	浦井 照彦	牧野 健司	〃	〃	新倉 良一	加藤 敬介	〃
〃	海津 健樹		〃	〃	盧 俊雄	青木 淳	〃
〃	吉井 英祐	佐藤 元	〃	〃	新井 康廣		〃
〃	栗山 純雄	大會根正史	〃	歯科放射線	宮 忠昭	佐藤 仁	〃
〃	池田 正一	浅野 薫之	〃	皮膚科	長谷川一雄		〃
〃	古賀 克隆	寺本 信三	〃	英語	B. L. S. Pierce		〃
〃	渋谷 俊之	成田 むつ	〃	内科	坂本 英次		〃
〃	松井 恭平		〃	市病内科	秦 葎哉	萩野 通	〃
小児歯科	佐牟田和康	宇留賀 勝	〃	〃	織田 正也	鈴木 雍人	〃
〃	田口 勝俊	堀内 実	〃	市病外科	勝俣 慶三	佐藤 哲雄	〃
〃	那須ますみ	吉嶺 光	〃	市病整形外科	福島 和昭		〃
小児歯科	淵野 智弘	杉原 惇	56. 4. 1	市病病	牧野 恒久		〃
〃	吉田 昊哲	古沢 博行	〃	市産婦人科	杉山 伸子		〃
口腔外科Ⅰ	小宮 善昭	福武 公雄	〃	市病眼科	島田 和哉		〃
〃	榎本 洋史	作間 敏信	〃	市病耳鼻・いんこう科	望月 幸夫	山下 孝	〃
〃	町田 和之	山崎 康夫	〃	市病放射線科	吉沢 信夫		〃
〃	大根 光朝	川端 輝彦	〃	市病歯科	森谷 秀樹	間 滋夫	〃
口腔外科Ⅱ	氏家 英峰	川本 強	〃	稲毛歯診	岩淵 武介		〃
〃	中沢 勝宏	大井 基道	〃	医療保険	藤田 孝美	ラテン語	〃
〃	江里口 彰	古川 正	〃	進学課程	小泉 清隆	人類学	〃
歯科麻酔	藤原 孝憲	福岡 明	〃	〃	松崎 欣一	日本史	〃
〃	西宮 寛	大會根 洋	〃	〃	前野みち子	独 語	〃
補綴Ⅰ	河邊 清治	鶴養 弘	〃	〃	三宅 晶子	〃	〃
〃	阿部 勤	小平 崇	〃	〃	四方田剛己	英 語	〃
〃	南 忠興	林 甫	〃	〃	立野 清隆	哲 学	〃
補綴Ⅱ	清水 堅三	寺尾 伸治	〃	進学教室	須藤 増雄	国 文学	〃
〃	酒井 福義	山中 喜夫	〃	〃	小城 和朗	西 洋 史	〃
〃	黒須 誠	内田 智幸	〃	〃	小室 信子	政 治 学	〃
〃	加部 光毅	田原 邦昭	〃	〃	飯田 鼎	経 済 学	〃
〃	児玉 定	平尾 文昭	〃	〃	羽賀 博	〃	〃
〃	桜井 裕	高宮紳一郎	〃	〃	金子 晃	法 学	〃
補綴Ⅲ	柳川 浩	高梨 恒一	〃	〃	種田 明	社会科学	〃
〃	石井 恒	竹井 正章	〃	〃	須藤 修作	統 計 学	〃
〃	宮下 恒太	平井 泰征	〃	〃	山本 陽介	化 学	〃
〃	武藤 直紀	榎本 善保	〃	〃	都築 清	生 物 学	〃
〃	児玉 重明	納富 哲夫	〃	〃	藤田 玲子	英 語	〃
〃	岡田 京子	黒田 昌彦	〃	〃	平井満喜男	〃	〃
〃	大澤 勤	巢山 寛慈	〃	〃	竹中正一郎	体 育 理 論	〃
〃	澤 潤	佐久間重雄	〃	〃			〃
矯正	大内 英男	成瀬 隆雄	〃				〃
〃	北総 征男	根津 浩	〃				〃

カロリンスカ大学歯学部との姉妹校協定調印なる

フロリダ大学歯学部との姉妹校締結に引続き、ヨーロッパの大学との密接な連撃が要望され、種々討議の末、選ばれたのが名門のカロリンスカ大学歯学部（スウェーデン国・ストックホルム）であった。すでに昨年10月、高添がストックホルムに出掛け、協定内容をはじめ、事務レベルでの準備を完了した。本年5月には鹿島理事長、松宮学長および高添がストックホルムで協定の調印を行う予定も立てられた。残念な事に鹿島理事長と松宮学長はお二人共、出発直前に感冒にかかられたため、渡欧を断念され、高添がすべてを代行する事となった。

昭和56年5月21日午前10時から Huddinge の歯学部会議室で予定通り調印式が行なわれた。カロリンスカ大学側から L. Edwall 歯学部長、G. Frostell 副学部長、T. Martinsson カリキュラム委員長、大学本部の Mrs. Lundquist が出席した。高添が、まず鹿島理事長、松宮学長の親書を手渡し、来訪出来なかった理由を説明し、お詫びした。その後一同で協定書を回読・確認し、順次調印、すべてが終わったのは10時35分であった。その間、イエテボリーの補綴学教室に留学中の小宮山弥太郎講師、カロリンスカ大学歯学部の齶蝕学教室に留学中の佐々木脩浩講師によって多くの記念撮影が行なわれた。調印後、本年11月に行なわれる本学創立90周年記念式典について説明し、姉妹校の学長として出席方を要請したところ Ed-

wall 歯学部長はこの招待を速座に快諾された。コーヒブレイク後、研究施設を見学し、調印式出席者全員が学部長に招待され、Huddinge Inn で昼食を共にした。

午後、ストックホルム市のカロリンスカ大学医学部本部に大学総長、医学部長の B. Pernow 教授を表敬訪問した。現在ノーベル賞授賞委員会の委員長である同教授は、今回の、本学とカロリンスカ大学歯学部との協力体制を大変高く評価され、歯学領域から、是非多くの偉大な研究業績が出るよう強く要望された。

調印式の前々日には、歯学部教授会主宰の晩さん会、前日はウプサラ大学医学部へのご招待、調印式の夜は歯学部長宅での晩さん会、翌日はアーキペラゴ諸島へのクルージングと大変心暖まる歓迎を受けた。予期に反して気温も高く、これまでになく快適な滞在期間を過ごし、土曜日の23日の夜、東京歯科大学主宰の晩さん会を12名お招きして Stallmästasegården で開催した。当夜、C. O. Henrikson 教授が協定に調印を追加された。外が未だ明るいので気が付かなかったが楽しい会が終ったのは午後11時近くとなった。

稲毛の新しいキャンパスには、やがてフロリダ大学やカロリンスカ大学からの研究者の姿も見られるようになるであろう。愈々本学も国際交流の場として研究・教育の実が挙がるものと期待される。(高添一郎記)



東京歯科大学主催晩さん会



調印を終わって

千葉校舎に期待する

— 一貫教育・教育施設・国際交流・そして —

微生物学 高 添 一 郎 教授
 第二病理学 山 村 武 夫 教授
 生理学 坂 田 三 弥 教授
 口腔衛生学 高江洲 義 矩 教授

(発言順)

(司会) 桜 井 善 忠 委員

司会：私は東京にいて同窓会の委員をやっておりますけれど、千葉校舎というんですか、稲毛のほうに移ることにあまりわかっておりません。ましてや全国の同窓の方々は、90周年であるとか、新校舎の募金など、こぞって協力していただいたんですが、これからどうなっていくのかに関しては、私以上に知らない方が多いんじゃないかと思うんです。そこで、今回11月に竣工式と、90周年の式典が行なわれるようですけれども、それを前にして、同窓の皆様方に、こんなような千葉校舎ができて、東京歯科大学はこのように発展していくんですよというような意味の、土地の規模とか概要ではなく、その内容を紹介していただきながら、先生方に大いに抱負と展望を語っていただきたいと存じ企画したわけなんですけれども今回、山村先生、高添先生、高江州先生、坂田先生と4名の教授の先生方に御出席いただきました。では先づ、今までの市川・水道橋というのから稲毛一本になって、六年制の大学としての一貫教育に移られるというようなことも伺いましたので、その辺のところから、真中に座っていらっしゃる高添先生から、同窓の皆様方に紹介かたがた今までの違いも含めて伺いたいと思います。

高添：一貫教育という言葉の定義は後廻しにして、まず同じキャンパスで、同じ学問を志す学生を教育できるという事は大学の長い間の悲願だっ

たと思います。その意味では一大転機です。従って今皆さん張り切っておられるだろうと思うんですね。さて一貫教育というのは、何も進学課程と専門課程とを、ごちゃごちゃにして全部通してやるという意味じゃなくて、教育に一つの筋を通そうという点で重要です。これを機会にカリキュラムを練り直せば真の一貫教育が出来るだろうし、大学の中でその一貫教育を施行する為に払う努力から出てくるメリットは、ものすごく大きなものだと思います。例えば、基礎と臨床との関連性、また、専門課程と進学課程との間の緊密な連絡なども、ある程度解決がつくだろうと思います。それよりも何よりも、一貫教育をすることによって、歯学に対する学生の理解が深くなるという意味で、一貫教育は非常に大きな意義を持っています。一貫教育をするためには、カリキュラムに筋をつけなければいけない。カリキュラムが総合化されなければならない。この事を言うことは簡単なんです、なかなか難しいんですね。しかし、稲毛移転を踏み台にして、それが出来るだろうと期待しています。

すでにカリキュラム委員会ができておりまして、金竹先生が委員長になっておられますが、順次論議を重ねております。一貫教育をしようということについては合意が得られていますし、進学課程、専門課程を通じて学年制を採る事について

も、大学全体の意志統一もできております。一貫教育をする前準備はすでに終わったという訳です。新しい皮袋ですので新しいぶどう酒を入れるべきです。従って一貫教育の内容については今盛んに論議が続いているところです。どのようなカリキュラムが組まれるかは、それぞれ大学人のすべての努力と熱意とにかかっているといえましょう。こんなところが総論じゃないでしょうか。

司会：山村先生、まあ私共も、昔市川から水道橋に行って、全然雰囲気違っていました。一貫教育という解釈が非常に難しいですけども、最近の新設大学はすべて同じ敷地内に一年から六年までという形でやられているようですけれども、その辺のところは、先生のお考えとしてはどうでしょうか。

山村：進学課程、専門課程および大学院が千葉校舎に集まるといことは、従来の教育方法、一貫教育あるいはその他の教育方法の最もよいと思われる方法を自由に選択出来るので、大変結構なことです。一貫教育というのは専門課程の授業を単に進学課程にくり下げるという意味だけではなく、大学全体が一箇所で勉強出来るということも意味しています。

六年一貫教育というのは、これは一つの教育の方法論であって、この教育方法自体には善し悪しはありません。これを運営するのは人間です。すなわち教育する教育者とこれを受け入れる教育される側の学生との両者です。運営の仕方によって良くも悪くもなると思います。一貫教育を上手に運営するためには、教育する側の計画性と能力および教育される側の学生の素質が問題になってきます。両者ともに優秀であれば一貫教育はうまくゆくであろうし、また従来の進学・専門課程という2部制の方法でもうまく行くと思います。いずれか一方あるいは両者が悪ければ、どんな理想的な教育方法を行なっても効果はないと思います。

東京歯科大学の学生は、上三分の一は非常に優秀、下三分の一はよくない。中の三分の一は上手に教育したら上のほうに何とか組み入れるように指導できると思います。東京歯科大学が千葉校舎の一箇所に集まり教育指導しやすくなったので、

六年制一貫教育もうまくいくのではないかという気がいたします。病院としては地理的条件が悪いので、やってみないとはっきりしませんけれども。やはり一箇所に全員が集まるとことはメリットのあることだと思います。

司会：坂田先生は、その辺いかがですか。

坂田：そうですね。東京歯科大学が市川と水道橋とに分かれているということが教育上の問題を解決しにくくさせているお話がさきさき出ておりました。六年制一貫教育の必要性は、個人では充分理解されながらも地理的な条件に障碍されて、その機を掴むことができなかったことは確かなことでしょうが、一貫教育が地理的条件が満たされれば、その実を挙げるができることと考えることも早計だと考えなくてはなりません。

過去、専門課程の教授間において、教育ないし研究に関する話し合いが、場の問題はまったくないのかかわらず、十分持てなかったという事実を頭に置かねばならないと思います。従って、市川と水道橋とは同じ目的の教育線上にあるはずなのに、学生の立場からこれを眺めると、どのように対応させられるか、対応したらよいかよくわからないというような現状が一部あったと思います。いずれにしても、今度は同一のキャンパスで、大学全教員が一貫教育への意志決定を行ない、先づカリキュラムの再検討をし、やっと新しく踏み出せたわけですから、千葉校舎への期待の第一はここにおかれると考えます。

司会：私も予科の最後で、ただし二年制になってからなんですけれども、高江洲先生は、進学課程、専門課程ということで、坂田先生や高添先生とやや違った意味で、本当の市川と水道橋という雰囲気を味わって教育を受けた先生なんですけれども、そういうお立場で今度は、六年制になることに関して先生のお考えをお聞かせ下さい。

高江洲：一貫教育というのは、今まで断片的なカリキュラムであったのに、縦の流れをとり入れるということが必要だとは思っています。ただ、六年制というのはやはり長いのではないのでしょうかというのが率直な個人の意見です。ですから、一貫教育の中にも長所と短所というのはあると思いま

す。

私たちの経験で申しますと、桜井先生がおっしゃっていましたように、進学課程というものを二年間過ごしたわけですが、これは学部にはない良さがあったと思います。ただ、さっき山村先生もおっしゃっていましたが、距離的な、あるいは物理的に離れていたということから起る、やっぱり一貫してとれなかったという欠点是否めなかったと思います。

そういう意味で、今後おそらく千葉校舎という場が与えられて、そこで今まで実現できなかったカリキュラムを作ることができるし、もう一つ考えられますのは、スモールグループ制と言いますか、ある少人数の学生に教官をつけて六か年間一つの流れを持っていけるという、イギリスの制度で言いますと、チューター (Tutor) 制と言いますか、そういうのもやれるだろうと、私自身はひとつの希望を持っています。入学当初のオリエンテーションからひびいていける良さというものがあると思います。

欧米のように、四年制の理学部の出身者から歯学部へ行くという、この世界的な大きい一つの流れというものに対して、将来日本はどのように歯学教育を考えていくかという面も、私にとっては気になることです。

司会：それから、進学課程の二年生のときに、基礎医学が多少入ってくるような傾向があるように聞いておりましたけれども、高添先生、カリキュラム委員として、その辺の所をちょっとご紹介下さい。

高添：明らかに部分的には、進学課程に専門課程の教育が入ってきます。ただカリキュラム委員会が大事な筋として持っているものは、学生の認識・自己開発段階が、進学課程と専門課程ではやはり違うという認識である事はつけ加えたいと思います。

従って、やはり、年齢に応じたそれなりの教育課目を与えるべきである。具体的には、知・情・意のバランスをとらせるのには、やっぱり進学の課程に相当するものは必要であると考えます。いちばん最初に申し上げました六年一貫教育に関連

する所です。

それにしても、ある程度専門課程の教育内容を進学課程に降ろすことも可能でしょう。

一方、もっと人生に対する意識や、自分の職業に対する考えができた時期に、言いかえれば専門課程の中に、現在進学課程で与えられている社会科学的、人文科学的なものを付加してやることも重要でしょう。そうすれば、幅広い人格としっかりした知識とを持った人間が出来てくるだろうと期待しているわけです。ですから、進学課程と専門課程をごちゃごちゃにする訳ではありません。

もちろん具体的な結論が出ているわけではありませんが、その筋だけは守るべきではないかと思っています。

司会：ありがとうございます。

次に教育施設という面で、それぞれ先生方、教室の主任教授であられると同時に、大学の中でいろんな役職をお持ちになって、リードされる立場にいらっしゃるわけですが、それでも、教室とか、実習室、研究体制、共用施設、その他学生が直接千葉校舎で教育を受けるに当たっての、水道橋との違いがずいぶん出てきているんじゃないかと思うんですけれども、その辺の教育と臨床と研究の中で、まあ先生方大変ご苦労が多いことと存じますけれども、これからキャンパスが大きくなって、どのような、これもやはり同窓に対する一つの紹介という形になると思うんですけれども、山村先生、研究共用施設の責任者でもいらっしゃいますし、その辺の所はいかがですか。

山村：東京歯科大学の教育方針は、優秀な臨床医、開業医を養成するということが最も大きな目的の一つです。医学、歯学の目的は、病気の予防、治療に関わるのですから、そうでなくてはならないと思います。そして、臨床医に対して医学知識の基礎を提供するのが基礎の研究者の役目であると思います。

水道橋校舎の研究設備は、昔の専門学校時代のもの少し大きくなったものでしたが、千葉校舎の研究施設は最初から設計したもので、大変立派なものが出来上りました。やっと世界的水準に達したと思います。

研究には形態学および機能的な二つの方法があり、両者に共通して動物実験があります。私は千葉校舎の動物舎の設計に関係しましたので簡単に紹介します。

1. 動物飼育、管理は専門の業者が行ないます。我々研究者は動物の購入の指示、そして実験を行なうだけで、他は全て専門家がやってくれます。犬、猿、猫、ウサギ、ラット、マウスその他が飼育できます。

2. 動物舎内は一定温度、一定湿度になるようになっています。停電の時には自動的に自家発電が作動します。このため機械室は非常に広く取ってあります。

3. 飼料保存室は広く、常時4~5°Cになっています。飼料が変質しないようになっています。

4. ケージはいずれも自動水洗、自動給水です。

5. ケージは蒸気による自動洗滌装置があり、非常に大きな機械です。

6. 動物の無菌飼育が出来ます。ヌードマウスも飼育出来ます。器具を消毒するオートクレーブは小病院なみの大きなものです。

7. コールドルームがあります。生化学的研究にはかかせないものです。室内が-5°C前後まで下げることが出来ます。

動物舎にはコンピューター室が取ってあり、将来は動物実験の総てのデータが記録されるように設計されています。

千葉校舎の動物舎はそれ程広くはないのですが、坪あたりの単価が一番高くついたとのことでした。大変立派な研究設備が出来ました。この設備を有効に使用するのはいわゆる我々の責任です。今から楽しみにしています。

司会：ありがとうございます。坂田先生、その辺のところを……。

坂田：水道橋校舎に比べれば、教育、研究、診療のいずれの施設を取り上げて比較にならない内容のものであると思います。あとは学生とわれわれとがここ千葉校舎でどのような学生生活を送るかということだと思います。

学生とわれわれとが学問にたいし、歯科医学にたいし、また歯科医療にたいして、高い意識を持

つようつとめねばと思っております。よい設備もこのことによって初めて生かされることになりました。また、さらに同窓の方達に期待したいのですが、母校の発展に大きな連帯感を持って欲しいということです。東京歯科大学学生として自らを律することのできる子弟を、一人でも多く大学にさしむけて欲しいとひそかに願っています。

司会：高添先生どうぞ。

高添：設備の面で良くなったというのは、大きく言って二つあると思うんです。一つは緑のなかった水道橋に緑が出来る。場所も広がった。よい教育環境に変わった。もう一つは、教室の中の設備が変わった。オーディオビジュアル・システムがかなり完備されたということですね。しかしながら、私はそれを運用し、かつ効果的にする為には、これからが大変だと思います。今、坂田先生が言われたね。皆さんがやっぱり、ある合意点に達して目標を明確に定め、同じ方向、同じ流れで教育をしていかなければならない。また教育のソフトウェアを作らなければならぬという点では、これまで以上に大変な作業が必要です。そして何を教えるかについては、問題を解決する能力を与えるところに集中するのが賢明だと思います。

このソフトウェア、すなわちカリキュラムの内容を補助する意味で、オーディオビジュアル・システムがあるんだということを、みんなが知っていなければならない。

そのソフトウェア自身は、もう一つ話が飛んで、歯科医師の国家試験にも深く関連しています。

よいソフトウェアを作る、維持することの前提に必要なのは、大学人がインテグレーションをすることなんだということですね。このインテグレーションの努力に対しては、同窓は暖かい目で見たいだかないと困る。その努力というのは容易なものではないですよ。お金じゃないですよ。熱意とエネルギーなんです。

司会：山村先生、今、手が上がっていましたが。

山村：先ほど、坂田先生から入学して来る者の素質の問題が出ましたが、私が今月号（歯科学報第78巻2号）の歯科学報の巻頭言に書いておいた

ので参考にして頂きたいのですが、要するに医師というものの目的、これは人間の生命を取り扱う職業ですから、教育というものは、学生自身の為だけのものでもないし、結局人間社会の為だということ。したがって、歯科医師は選ばれた人でなければならないし、十分な素質を持って、そして最高の教育を受けなければいけないという坂田先生のご意見に賛成です。

司会：同窓の中でも、これから大学に子弟を預ける場合に、やはり資質そのもの云々というんじゃなくて、やはりそれは入学させる段階、セレクトする段階で、いろいろ問題があるということになると、これは又別の問題ですけれども、やはり教育する立場の先生方が、中間層の学生をどういう形で上げていくかというのが、先生方に課せられた問題じゃないかという感じが致します。山村先生、その辺、いかがでございましょうか。

山村：確かにそうなんです。私が慶応大学医学部病院に在籍していた時、病理学総論の試験問題はB4判で5～6枚、孔うめ式の問題が多いのですが、全部で300問前後ありました。この全く同じ試験問題を、私が昭和41年に東歯大に移った年の秋の臨時試験に、東歯大の学部一年生に出してみました。

100点満点で、慶応の学生は最高85点位でしたが、東歯大の学生は98点でした。この結果を見て私はほっとして、東歯大で学生に教育するのに自信が付き、楽しみとなりました。ただし、問題は最低点で、慶応では約40点、東歯大の学生は1点です。慶応では70点を中心に山が高くなっていますが、東歯大は最高98点から最低1点までグラフの幅が広く、低く、山が50点前後の所にあります。要するに東歯大の学生の上3分の1（厳しくいうと上5分の1）は優秀な学生がいます。中3分の1はまあまあで、教育によってなんとかなります。下3分の1（又は下5分の1）は、正直いって問題にならないと思います。

社会のためになる優秀な歯科医師を養成するという目的からすると、下3分の1の学生は入学時に、すでに東歯大に入学する資格はなかったわけです。しかし、入学して来てしまったからには、

歯科医師として恥しくない程度に勉強させて、卒業させなければならないと考えています。

私は今年はずじめて学部一年の学生主任にさせて頂きましたが、現在下3分の1の学生が何故成績が悪いのか調べるために、進学課程の1年および2年の時の成績、出席時間など、出来るだけ広い範囲、そして現在の状況を検討しています。

病理学の点数というのはその学生の素質の一部であり、全体を示すものではありませんが、成績、出席時間、遅刻回数、勉強の態度、クラブ活動、その他を総合すると、その学生全体（知・情・意）の素質を十分に把握することが出来ると考えています。

特に精神的な病気の学生をのぞき、なんとか一人前の歯科医師になってもらわなければと思っています。

高添：今の問題は、非常に多面的な問題を含んでいますね。二つ申し上げてみたいと思います。資質の優秀なという、優秀というものの定義なんです。点数4点、5点違うと、筆記試験ですよ。そういうことが決定的な指標になるという概念は絶対に排除すべきであると思います。それはおかしいですよ。少なくともこの種の固定的な概念が、多角的に学生を見ようとする他の試験方法に水を差しているのは間違いないですね。僕は人の評価は非常に難しいと思うんです。出来るだけ総合的に試験をする以外にないでしょうね。

坂田：先天的な要因を持つ資質が特定の個人に有るか無いかを決定することは大変むずかしいことですが、少なくとも先に述べましたように、入学以前において自らを律する程度の思慮を持ち合せていることが、現在のように大きな規模の大学において学ぼうとする人の大切な基本的な条件であると思います。

司会：教育施設の問題から多少離れて来ましたが、山村先生、手が上がっているの、次をお願いします。

山村：先ほど、高添先生が知・情・意ということを申しましたが、確かに入学試験で選考するのは非常に難しいと思います。ただ、高校の成績が良い、入学試験の成績が良いということは一つの

指標になります。その学生の素質の一面の表現であると思います。知がよければ他の情・意もよいと推測出来ると思います。知のみよくて、情・意が全くだめな人間というのは精神をのぞき存在しないと思います。

坂田：歯科医師の社会的地位を向上させたいという大先輩達の悲願が、昭和21年歯科大学の誕生という形で戦後ようやく結実したということをよく聞かされたものです。したがって、この開学の意図は、教育を通じて強く受けとめさせられ、また受けとめようとしたことを記憶しております。

現在この問題は教育制度・医療制度の改革と相俟って、あまり意識されないように感じられますが、しかし、歯科医師と患者間のいろいろな問題がこのようなところから違った形で生まれているものあることを思われます。

私は埼玉の田舎の出でありますが、小学校・中学校・高等学校等を通じ、あの男が歯科大学を出れば当然立派な歯科医になれるはずだと、同僚によって暗黙の中に評価・認定されることが、このような点においていかに大切であるかをよく知っております。

短兵急な思いつきで歯科大学を受験し、かりに入学・卒業できたとしても、評価される歯科医師には簡単にはなれないということです。

高添：僕が申し上げましたのは、絶対に正しい入学試験方法というのはないという事です。先生方のおっしゃったことは当たり前で、僕も理解しております。さっき一つだけ申し上げたんで、あともう一つ申し上げます。教育というのは、何を教えるかがものすごく大事であり、研究というのは、研究者をいかに大事にするかが重要である。この点で両者は異質のものだという事です。その意味で、何を教えるか、何を目標にするか、学生が到達すべき所は何だという事については、もうちょっと論議が必要です。

山村：それは進学課程で教わったはずですけどもね。医の倫理というか歯科医師の……。

高添：いやいや、そうじゃなく、歯学の目標というのは皆で決めなくちゃいけないと申し上げているんです。

東京歯科大学で、各課目の目標を設定するということは大変大事です。課目の目的と学生が到達すべき目標です。どこにレベルを置くかを決めるまた全科目間でバランスがとれているかをチェックする事が、大事だという事を申し上げたかった。

司会：それじゃ、教育施設関係のお話に戻しまして、高江洲先生どうぞ。

高江洲：先ほどの、教育設備、施設に関してですけれども、高添先生が、ソフトウェアという言葉をおっしゃっていましたが、そのことに尽きると思うんですね。

いわゆる場は与えられた、特に学生にとっては、あの設備はすばらしい設備だと見ています。しかし、大事なことは、教育というのは、いい研究に支えられてよい教育というのができると考えているわけですが、あれをどう生かすかというのは、今後の研究の面に対する、サポートと申しますか、発展させるような方向に持って行かない限り、あの場というのは生かされないのではないかと思います。もう一つは、単科大学の宿命でもあります。他の学部との交流が少ないわけですね。そういう意味で、従来市川と学部が分かれていて、例えば理科系の先生方、あるいは設備がある程度ありながら、全く一緒にやれなかったという欠点があった。それが一つのキャンパスでやれるということは、こま切れであったその設備を今後は一つにつなげる。これこそ一貫という大きい意味を持っているのではないかと思う。で、それとやはりあの場で大切なことは、理学系のみならず、社会科学・人文科学系、さらに人間性の教育ということにつながると思います。特に今の時代は、そういうことに教育の重点を置かなければならない。テクニクの問題は、あまり時間をかけなくてもやっていけると思うんですね。我々教師が、ある時期に新しい教育工学というのを導入すれば、できないことはないと思うのですが、本当の教育というのは、研究を先導させたいというものですから、これはかなり時間がかかるものだと思います。

司会：高添先生、このテーマにおいてはもう一

つ、教育施設についてのPRをまとめていただきたいんですが。

高添：オーディオビジュアル・システムの使い方もいくつかあります。実習室で実際に先生がデモンストレーションしているものを大写しにして学生自身に見られるという施設と、学生がVTRを使って自習出来る設備もあります。スタジオも用意されています。さらに、やがてシステムがコンピューター化される可能性もあります。少なくとも可能性のすべてを含んだ設備が、盛り込まれています。

山村：高添先生がおっしゃったように、オーディオビジュアルは、方法論としては、非常にいいものです。この使い方によっては、非常に教育の効果が上がると思います。この効果をどうやって判定するかは、コンピューターを使用する時期が来たと思います。

大学にコンピューターの専門家をいれて、全ての事務、研究、診療、教育関係のデータ処理をコンピューター化すべきであると考えています。

司会：高江洲先生、先ほどのお話ですね。私共は単科大学で、ほかの学部の人と触れあいが無いというようなお話がありましたけれども、例えば今度一緒になる進学課程には、物理の教室も実習室もあり、化学にも研究室・実習室を持っていますけれども、そういう他の専攻の教室との交流というのは、先生はお考えですか、基礎の先生として。

高江洲：いや、必ずしも特定の教室ということではなくて、つまり単科大学の一つの宿命として、総合大学でないということから、学部間の交流というのはやはりうすい面があると思います。それを補う面で、先ほどの一つの場合で、一貫というのは、まさにそれを表わしているわけですが、それは今後の問題だと思うんですね。どこまで一貫という意味を生かせるのか、それは先ほど言いましたように、教育というのは、研究に支えられていい教育ができると、私はいつも思っております。あるいは教育と研究は、あざなえる縄のごとくでしょうけれども、しかし、私はやはり研究というものがあって、教育というのはレベルが上が

るというふうに考えております。先ほどのオーディオビジュアルというのは、一種の教育工学であって、これは短期間でも修得できるということを強調したわけです。そういう意味で、稲毛で一貫ということの意味は、もう少し深く捕えたい。それは、物理も化学も、いわゆる普通のサイエンス全部を含めて、場合によっては、場を作ると、そして外部からビジティングといいますか、客員の形で来ていただいてもよい。その位の設備と場が与えられたのではないかとということなんです。

司会：じゃ、その件では最後に。

山村：高江洲先生が、物理関係、理学系の共同研究をやるというのが非常に大事だということはいくつもわかります。非常に難しいという一つの例をあげますと、某大学で、理学系の連中と共同研究をしなければいけないというので、理学系の卒業生を医学部に入れ卒業させたんです。卒業したあとも医学部に残留予定だったのですが、一人も残らなかった。医師の免許証を取ってしまったら、皆出て行ってしまって一人も残らなかった。これは、大阪の某国立大学医学部でも同じようなことをやったが、すべて失敗してしまった。だから、そういう理学系との共同研究、これは非常に努力しないとうまく行かないという事実があるので、これは大変難しいことと思います。

高江洲：確かに、時代はそれを乗り越えなければならぬところに来ている問題が、個個にあると思います。

坂田：東京歯科大学において、独創的な共同研究を計画し、推進することは、本学の将来を決定する上でも大変重要なことです。

しかし、共同研究のために現在本学が到底具備できないような条件の検討に終始することなく、まず解決可能な身近な障害を取り除くよう工夫することが大切であると思います。研究費を含めた研究の運営方法、学位論文の公表形式などの改善等は単純なことではありませんが、共同研究を大変行ないやすくするものだと思います。また、ここで一番大切なことは、千葉校舎に新設された既存講座間で共同研究の計画がなされることです。これを飛びこえてかりに大きな協同研究が組み立て

られてもその成果は期待できないと思います。

高添：それは別の角度からも考えなくちゃいけないと思いますね。今日、日本の大学の制度を支えている基本的なプリンシプルとして、教育・研究不分離という旗頭があるんですね。それが正しいかどうかです。これは非常に難しいんですが、少なくとも今は、教育・研究不分離論に陶醉している時期じゃないと思いますね。

教育と研究とは、大学の中ではお互いに相反するものを持っていますよ。反対の理論は教育機械論だと思っただけです。教育は、機械的にできるんだ、いろんな物を駆使すれば誰にでもできるんだというものです。教育と研究は別々に考えている国もたくさんありますが、日本ではそれを簡単に分けられるかどうかという点、大変難しい。

坂田：大学を卒業し、講座に籍を置くことになった者すべてが、よい研究を行ないよい研究者になる努力を続け、やがて教育にたいしても同様な姿勢で参加することが大切であると思います。特に基礎系においてはこの他になす道はありません。

しかし、年齢的、体力的に実験室での研究に難を生じた年功者は、研究から離れ、教育一途に専念することはよいことだと思います。

山村：教育、研究、診療は医学部、歯学部の大使命であって、一つもおろそかにすることは出来ません。本当によい世界的な研究をやるためには、優秀な研究所に行かなければ出来ません。教育と診療のあいまに世界的な研究が出来る筈がありません。

トップクラスの研究は、素質にめぐまれた研究者が最高の設備をもった研究所にいてこそ出来るものであり、この人達が世界の研究をリードしています。

大学は教育、診療が中心で、研究は大変残念ですが中位の研究を行なう場所と考えています。

高江洲：最近、医学歯学教育にゼネラルプラクティショナー（GP）教育という課題が入ってきたんですが、それを取り違えている面がないかという気がします。いわゆる教育に徹すれば、いい医者ができる。特に医学歯学教育において出てく

る言葉なんですが、私はそれに異論を唱えたいですね。

むしろ私自身はここを教えようと思うんですが、クエスチョンが出てくる。教育の場でこんなことを言い切っているんだらうか、ここがわからないんじゃないか、言えないと講義ができないという所から、研究の必要性ができてくる場合も多々あるということをお願いしたい。それは、確かに研究所に行ったほうが、純粋なしかも高度の研究ができるという面も、もちろんありますけれども、しかし教育の場での切実さで、研究が推進されるということが、私の分野の公衆衛生ではしばしばあることです。

高添：研究のサブジェクトに関しては、あなたの言っていることは正しいと思うんです。だけど、研究というものの目標は、極端な表現をすれば研究の成果であって、目標じゃないんですね。又途中でもない。努力なんていうのは、ホームランに近いのを打ったからと言って受け取られたらアウトになるのと同じでね。経過はあまり評価されない。結果なんです。そういう意味では、教育とは全く違う。教育では経過が非常に問題なんだ。だから、どんなに長い間さぼっていても一発いいことを考えて、いい結果が出て、それが普遍性があるならば、それは研究成果が上がったということになる。ですから、先ほど申し上げましたように、極めて異質のものなんです。もっとも研究のための努力が教育効果に反映する事はありますがね。

坂田：水道橋校舎においても、4つ程の共同研究施設があります。やがて共同研究を行なうことを前提にして、毎年特別研究費が設備の充実にあてられてきております。しかし、狭い校舎の中から無理して見つけ出された場につくった施設でありますから極めて狭く、かつ分散しているために、十分な機能を果たすために大変な努力が運営、管理に払われております。

しかし、千葉校舎においては、基礎棟2階に形態系・機能系の共同研究室が当初より設置されることを、立場上ぜひここで申し上げておきたいと思います。その広さは4講座分に該当し、なお機

能系の共同研究室は新設のものであります。

司会：はい、ありがとうございました。それでは次に、国際交流の問題に移りたいと存じます。ここへきて姉妹校が2校になり、どのような形で学生教育に生かされるのか、もちろんその研究面でも、ただいま先生方からのご意見が出ていましたけれども、教育と研究、表裏一体でやっていらっしゃる中では、どちらにプラスに働いてもよろしいんですけれども、その辺の所を、高添先生が国際渉外部長でいらっしゃいますので、高添先生から最初にお話いただいて、それから、山村先生はイタリアの大学との交流をなさっていらっしゃるし、高江洲先生もアメリカやヨーロッパにいらっしゃって、いろいろ外国の事情等もお詳しいわけですけれども、これからの東京歯科大学の新しい行き方として、国際交流をどのように生かされていくのかという点についてお願いします。

高添：国際交流というのは、大学の世界的な動きです。外国の場合には、設備や学問に対する考え方、さらに言葉などで、国際交流をし得る状態にあるわけですね。それに対して、日本の場合には、国際交流というのは、こっちから出かけて行くことが主体だったんです。ですけれども、今度稲毛にあれだけのキャンパスができてね。そして、先ほど来お話にも出ておりますように、教育に対しても、ある程度一貫したポリシーが持たれて、それが実行されるであろう。研究についても、新しい所で新たな決意で展開されていくだろうと期待されます。従って今度こそ、おいでなさい、一緒に勉強しましょうということが、初めて言える段階になったと思うんです。そういう意味では、国際交流の出発点としては、稲毛の新しいキャンパスというのは意義が大きい。姉妹校もできました。幅広い国際交流の出発点に立ったという事は、エポックだと思っています。

司会：何か具体的な紹介等がありましたら……

高添：フロリダ大学とはすでに姉妹校の締結をいたしましたし、具体的に、こちらからも3人の人に勉強に行ってもらっています。向こうからもそれに相当するような人たちを迎え入れて、研究

面あるいは教育面に、新しい空気を入れようということになっております。またこの同窓会報が出る頃には、すでに締結を終わっていると思うんですけれども、スウェーデンのカロリンスカ大学との提携ができますと、研究面でも新たな刺激を受けるでしょう。

大学人ばかりではありません。両方の大学とも、学生さらには同窓が、専門的な知識の交流の為に大学を訪問することは、お互いに歓迎できる状態になっておりますのでね。大いに活用していただきたいと思うんですね。これまでとは一段と味の違った交流ができるだろうと思います。

司会：山村先生は、もうすでに国際交流を実践されていらっしゃるわけでございますけれども、特に姉妹校ということにこだわる必要はないと思えますけれども、その辺の展望をお話しいただきたいんです。

山村：東歯大の理事長、学長が国際交流の重要性を主張されておられることは、大変結構なことです。

私共、第2病理では、十数年前に慶応大学医学部精神科の三浦名誉教授に、ミラノ大学薬理学研究所のトラブッキー教授をご紹介して頂きました。教室員は平均2年間留学し、トラブッキー教授、クレメンティ教授、メルドジョー教授のご指指導をうけております。クレメンティ教授、メルドジョー教授は私より4～5年若く、ノーベル賞を取ったバラード教授の研究室に、それぞれ2年間留学し、電子顕微鏡的、生化学的、薬理学的、免疫学的の研究に関して世界の第一人者です。アメリカに2年間留学の外、フランスに各1年間留学しています。教授はいずれも、母国語のイタリア語の他、英語、フランス語、ドイツ語が出来ます。研究の内容を母国語以外の各国語で思考出来るというのは、大変うらやましいと思います。

私が慶応医学部病理学教室から昭和41年に移って来た時は、第2病理の将来、東京歯科大学の将来を考え、教室員を留学させ、国際感覚を持たなくてはならない。研究の内容は世界の研究者に知ってもらわなくてはならない。タンスの中に使用しないでしまい込んである着物の様であっては

ならないと考え、三浦教授のご紹介でミラノ大学薬理学研究所に留学させることになりました。

東歯大では国際交流の重要性を主張しています。大変結構なのですが、助教授クラスの若手の海外出張期間が3カ月（現在では1カ月）では短かすぎます。外国の歯科大学の研究、診療あるいは教育の本質を知るためには、平均2年間を必要と考えます。その2年間は100%の有給休職にして頂きたいのです。特に結婚している人が留学する際、生活がかかっているので大変なことです。

私は若い人に留学する機会があったら、銀行から金を借りてでもよいから行くようにすすめています。東京歯科大学の将来を考えたら、若い人の留学は平均2年間、この間有給休職を大学当局に考えて頂きたいと思います。

司会：それに対してちょっと。高添先生。

高添：山村先生のおっしゃる通り、研究には時間が必要だし、段々そうなると思います。ただ日本の大学で大事な事の一つに、研究や教育に対する自意識高揚の必要性が挙げられる。その意味では国際交流というのは、非常にいい刺激になるという事も考えておきたい。

山村：自意識の高揚というのはどういうことですか。

高添：いい研究をしよう、いい教育をしようと思っていない大学人が、結構多いんですよ。それじゃ全然大学は良くなりませんよ。国際交流というのは、極めて多角的な刺激を与えるという意味で、高く評価されるべきだと思っています。

山村：ただ、感受性（素質）を持っていないために、研究、教育のための自意識が高揚してこないような連中を、間違っても送り出してもらっては困ります。

高添：その通りです。そして大事なのは国費を得るよう努力する事です。公費を得るような手当てで送り出すという努力も必要ですね。

山村：まかり間違っても、感受性（素質）のない連中を送り出したら困ります。厳しく選択してもらわないと。

司会：研究部長でもある坂田先生。

坂田：先生方のおっしゃる通りだと思います。

素質あるものに大学が積極的に機会を与えてやるのが大切です。専門の学問領域だけでなく、大学の研究・教育に大きな貢献をすることは間違いないことです。

あまり機械的にやると、成果に結びつきにくい恐れがあると思われます。したがって、いいやつだなと思ったら、先生のおっしゃるごとく、大学がサイフをはたいてでも、サポートしてあげるといようなことが絶対に必要じゃないかと思うんですよね。その決意がなかなかできにくい現状ではね。

司会：高江洲先生、先生ご自身もそういう経験がおありになる訳ですけれども、国際交流に関する展望というか抱負、特に千葉校舎に移るにあたってということで、ちょっとお話しただければ、ありがたいのですが。

高江洲：国際交流ということは、交流になるようなものをこちら側が持っていないきゃならないと思うんです。もう出かけて行くという姿勢ではない。交流になるものをこちらが持っていて価値があるわけです。

それと、もう一つ、国際交流ということでは、ちょっと話題がそれるかもしれませんが、千葉に東京歯科大学が移るといことは、今までにない歴史的なことなんです。

それは、東京にある東京歯科大学というのと、千葉にある東京歯科大学というのでは、地域性の点で異なるのです。

私は口腔衛生、公衆衛生の立場ですので、その地域性に根ざした大学の方向というものが、今後は大きい問題だろうと思います。実は、ワールドヘルスという雑誌の1979年の7月号に、WHOのバートンという人が、これまでの医療の歴史というのを、非常に簡単にわかり易く解説していますが、その中で、1950年から1975年までは地域医療の時代であった。コミュニティセンタード、つまりコミュニティを中心とした考え方だった。しかし1975年から2000年への、これからの時代は何であるかということに、それは、ピープルセンタードである。すなわち、ピープル中心である。そしてポリティカルヘルスサイエンス、いわゆる

政策的な保健の時代に入るんだぞということを言っているんです。これは先ほどの話に戻りますけれども、国際交流そのものでも言えることです。結局我々は、今まで非常に勝れた研究機関というものにも、絶えず出かけて行ったわけですが、その世界の、各地域でどういふふうに医療というものを考えているのかというものを、身につけておかなければならない。そういうふうなとらえ方が、もうスタートしている。2000年に向かってスタートしているという時代に入っている。そういう意味で、私は国際交流というのをとらえたいということで、さらに、千葉に東京歯科大学が移るということは、公衆衛生の面からも、一緒に考えていく時期に来たんだということを感じるわけです。

司会：他のサイエンスも経済もすべての点で、日本が国際的レベルに達し、今逆にアメリカに、いろんなノウハウを提供してやろうじゃないかというような時代になっているようですが、歯科の領域では、まだ、ようやくギブアンドテイクの段階に来たんだというようなご意見がありましたけれども、歯科は、それだけ今まで遅れていたということなんですか。

高添：部分的には遅れているんじゃないですか。少なくとも、教育や研究に対する姿勢について遅れていますね、内容はともかく。

司会：それが国際交流によって、まあいい方向に行けるというメリットがあるわけですね。

高添：そうです。絶対シェイクアウトされますよ。

司会：それからちょっと、きょうの話題から逸脱しちゃうんですけども、国際交流も結構なんですけれども、日本が国際社会でどのように寄与していくかというような中で、日本はこれだけ歯科大学も増えて充実してきておるわけですが、例えば、南の国の人たちの歯科教育の一端を担ってあげるといふような、そういう意味あいの国際交流ということは、全然考えていらっしゃらないですか。

高添：それも考えています。それには幾つかの制度上の問題があるんですね。制度の中で一番問

題になるのは、ライセンスですね。政治的な解決をしなきゃいけない面もありますけれども。ギブアンドテイクでなく、与える一方で構わないと思っています。

山村：ちょっと逆戻りして申し訳ないんですけども、高江洲先生がおっしゃった、国際交流の仕方に、大体大きく分けて二つあると思います。学校を卒業してすぐ行かせて、相手の知識を吸収して、帰国後それを利用するという方法。それともう一つ。ある程度の研究成果が出てきて、ギブアンドテイクの形で留学するという方法です。

私が言いたいのは、助手・講師クラスの若い人はやっぱり卒業してすぐ送り出してやりたい。それから助教・教授クラスで、ある程度の成果が出てから交換留学できたら、相手に研究内容を教えたいという希望はあります。出来たら2回、すなわち若い時と齢をとった時の2回、留学させることが理想的と思います。

司会：今度はその他ということで、今までこちらからテーマを出してご発言いただいたんですけども、フリーに、千葉校舎に移るにあたっての抱負と展望といふようなことをおっしゃっていただけましたら。

山村：非常に具体的な話なんですけれども、せっかくいい千葉校舎ができましたね。今まで我々、水道橋中心で生活を組んでいましたが、今度は千葉校舎を中心に生活を組まなくちゃいけない。そのためには、職員寮、学生寮をまず作っていただきたいと思うんです。ただ、日本人の性格として、自分の物は大切にする、共用のものは大切にしないという意識が、まだ三等国並みの意識しか持ちあわせていないので、職員寮、学生寮の管理は外国並みにはいかないだろうと思いますけれども、できたら立派な職員寮、学生寮を作っていただきたいと思います。

坂田：私は専2の学生主任をやっておりますが、学生に、諸君と我々は一団となって千葉校舎へ移転しようと言っております。

水道橋に積みあげられた先輩の足跡をこぞってこれを千葉校舎に移し、新しい東京歯科大学をかの地に創造したいと思うわけです。振り向いては

いけないといいきかせております。

高添：社会は、ものすごいペースで進歩の道を歩いているわけですね。どのジャンルでもそうです。稲毛のキャンパスができたということを軸にして、この進歩のペースを本学に導入する。そうすれば、東京歯科大学により新しい風も入ってくるだろう。

我々は新しい雰囲気をつくり出さなくちゃならないだろう、それが実行できるだろうと信じます。一段と東京歯科大学が発展する契機として、稲毛の新しいキャンパスは大いに意義があると思うんです。

司会：水道橋、稲毛という言葉が出てきましたけれども、我々はよく、血脇イズムとか水道橋精神とか、いろいろなことで、水道橋ということでもとまっているものがあつたわけなんですけれども、今度は千葉校舎に移って、学生達の心の支えというか、そういったものに対しての影響力というか、そういうものがちゃんと育っていくのかどうかということも、やはり同窓としては心配し、関心を持っていると思うんですけれども。その辺、いかがでしょうか。

高添：稲毛に行けば未知の問題にもぶつかるだろうと思います。大きさにいえばアメリカ大陸を開拓した人たちと同じような苦勞もあるでしょう。しかし、新大陸開拓の熱意とエネルギーが、水道橋精神にさらに付加されるだろうと期待しています。

坂田：高添先生のおっしゃったように、高いエネルギーを放出することなしに、血脇イズムない

しは水道橋精神などというものを、千葉の地に受け継がせることはできないだろうと思います。学生と我々が一つになっていくということを学生全体に訴えたい気持です。

高添：苦勞を共にしようということなんですよ。新しいところですから、いろんな問題が出てくるでしょう。しかしそれを克服するとともに、新しいエネルギーが生まれるだろうと思うんです。

山村：僕は、高添先生の意見に大賛成です。要するに、90年の伝統のエネルギーを、一挙に千葉校舎に振り向けて、あと水道橋に何を建てるかは別問題として、そのエネルギーをさらに倍加して、千葉校舎に振り向ける。そうすれば、プラスになりますよ。

高添：間違いなくプラスですよ。また、プラスにしなきゃいけないですよ。

高江洲：私もその点で同感です。最初に申し上げましたように、スモールグループ制のように、いわゆる教員と学生が一体になれる場ができたこと、それが千葉校舎ではないでしょうか。私たちの新しい校舎、新生母校。新しく生まれかわるといふ、そのことを申し上げたいですね。

司会：どうもありがとうございました。

本日は4人の教授から新しい千葉校舎の展望と将来の歯科医学教育について大変夢のあるお話を伺がえました。同窓各位もこれからの母校千葉校舎に多いに期待していただきたいと存じます。ではこのへんで座談会を終らせていただきます。ありがとうございました。

支部のうごき

東京地域支部連合会

東京地域支部連合会では、6月7日(日)霞ヶ関ビル内東海大講堂において、臨時総会を開き、清藤志郎会長辞任に伴う新会長の選出を行った。総会では藤林会長代行の挨拶、鹿島理事長、松宮学長の来賓の挨拶、等が行われた後、議事に入り第1号議案役員の選出に関する件を上程、提案理由の説明を梅田総括が行い、満場一致で河邊清治同窓会長が新会長に選ばれた。新会長は「定時総会までの暫定期間という事だが、全力をあげて会務の執行にあたりたい」と力強い挨拶を行った。

次いで7月2日(木)水道橋グリーンホテルにおいて、第1回役員会を開き新役員の職務分担を行い、今後の会務運営について協議した。その結果、①会則検討について、②福祉共済については特別委員会を設置して検討する事を決定、更に可

及的すみやかに支部長会を開き、新執行部の基本的な運営方針を協議すること等を決めた。

新役員の職務分担は次の通りである。

会長 河邊 清治

副会長 吉川 大三

佐藤 貞勝

理事 福本 忍(総務)

荻野 益男(総務)

宮下 達也(会計)

熱田俊之助(渉外)

田辺 明(学術, 渉外)

佐藤 忠明(福祉)

安藤 三男(広報, 学術)

監事 愛知 正晴

児玉 良知

(安藤記)

埼玉県支部

東京歯科大学同窓会埼玉県支部では去る6月21日(日)午後3時より昭和55年度総会を伊東市のホテル・サザンクロスにおいて開催した。また翌22日(月)には水橋会ゴルフコンペをサザンクロス・カントリークラブにおいて開催した。総会には来賓として参議院議員関口恵造先生、母校から学長代理として田熊庄三郎教授、同窓会から、伊丹一男同窓会副会長が出席され、支部からは、加島忠道支部長をはじめ45名の先生方が出席して盛会に開かれた。

小杉国武先生の司会で金子雅英副支部長の開会のことばで始まり物故会員に対して黙禱をささげ続いて支部長挨拶の後、来賓の田熊教授、伊丹副会長、関口参院議員から各々学校移転問題、同窓会として大学施設整備資金募金問題、医政問題に

ついて御挨拶をいただいた。

続いて荒井 栄先生を議長に選出して議事に入り会務報告(加島)、昭和55年度収支決算報告(稲生)が行われ全員の承認を得た。また長年に亘って埼玉県支部のために御苦勞を願った下記の6名の先生に記念品の贈呈が行われた。(敬称略)

増田悦蔵、野上栄次郎、荒井 栄、井原泰次、中村正男、駒橋 武。

続いて協議案件では他大学卒業生の同窓会会員への推薦問題についての質疑その他があった。また増田前支部長が名誉会員に推薦された。

以上約2時間に及ぶ審議の末、午後5時無事終了した。続いて夕刻6時より懇親会に入り伊丹同窓会副会長の音頭で乾杯し宴も半ばになれば自慢のどや踊りを披露しつつ歓談し先輩、後輩の懇

親の輪を拡げ8時半高瀬先生の手締でおひらきとなった。

出席者会員（順不同・敬称略）

並木(恒), 猪狩, 高瀬, 伊藤, 鈴木, 浅利, 氏家, 山崎, 戸内, 中島, 牧野, 田原, 加島, 稲生, 勝股, 粟生田, 森田, 小杉, 大塚,

福田(道正), 金子(雅英), 高柳, 駒橋, 稲葉, 金子(弘), 相田, 島田, 延島, 荒井, 福田, 酒井, 板倉, 小幡, 今井, 中路, 本間, 関谷, 佐藤, 橋本, 並木(三郎), 竹井, 関口, 浦島, 増田(紀男), 増田(憲司), 長谷川。



水橋会ゴルフコンペ

水橋会ゴルフコンペは東京歯科大学同窓会埼玉県支部の会員のゴルフ愛好家の集まりで毎年一度行われるコンペである。今年は6月22日(月)サザンクロス・カントリークラブで行われ参加者も28名と今までになく多数の会員が参加され富士・天城コースにおいて腕を競い合った。

主な成績は右記の通り。

富士 天城 G H. D Net

優勝	小杉国武	41	38	79	10	69
準優勝	山崎萬司	40	44	84	14	70
3位	今井秀久	42	45	87	17	70
4位	福田 博	57	53	110	36	74
5位	稲生義彦	45	43	88	14	74

B. G 小杉国武

L. D 増田紀男, 粟生田友三

N. P 浦島 治, 稲葉 幸 (板倉記)



クラス会だより

十 年 会

大正14年卒



十年会京都大会

大正10年入学生を以て十年会を組織し、20数年前から毎年各地で会合し、親密さと結束をはこりとして和気あいあい唯一の楽しみとして連続し全国各地を廻り、今年は大坂松浦君のお世話で去る5月10日3泊4日で京都市内で清遊した。無論会員は年々減少するのは止むを得ざるも、御夫人方々が益々元気よく参加され、集合者16名中本人は6名、川又君の次男の丹羽夫人、松浦君の妹様が参加され意気盛ん。京都祇園のホテル畑中で3泊、皆元気で子供の様にうれしさ一杯に満ち、食後いつの間にか女性10名は直ぐ祇園へ出かけわいわい、男性は皆宿でおとなしくお待ちした。世の中は全く一変した。

第2日は南座で猿之助一座で満足、なかなか日頃はかんたんに観劇出来ないから全くよい計画であった。万福寺の普茶料理も京都ならではの有難

味があった。

あちこち寺院を廻って1,400年前かくも仏教が勢力を圧倒的に拡大して国民の信仰の中核となったことと第3日の見学で始めて解った。

来年は絶望的な話もあったが開散後又元気を持ち直し、玉井兄等中心となって開催されそうだ。健康第一にして又お会いしましょう。

今回のクラス会は松浦兄の絶大なギセイと努力で実現したもので、感謝の言葉がないが、バックには歩行も困難な白須雅兄が大指揮をとられた事を感謝特記す。

出席者 松浦寅雄氏、同夫人、同御令妹、岡本種義氏、奥村徳治氏、同夫人、斉藤 煮氏、玉井克依氏、真砂宇一、同夫人、原匡子夫人、平井節子夫人、石川とし子夫人、鈴木鶴子夫人、丹羽タカ子夫人（川又軍次氏次男夫人）、菊地婁子

壬 成 会

大正15年卒

56年度の大会は四国の松山から足摺を廻って高知までの3泊4日の日程で開催されました。5月19日道後温泉のホテル大和屋に午後2時に空路又は海路で皆様元気にお集まりになりました。幸い前日迄の長冷雨も上り早速市内の観光に出発、子規堂、四国八十八カ所の51番目の札所「石平寺」参拝、伊予紉の織元ではショッピング、夜の懇親会には伊予万歳の華麗な舞を満喫、湯元本館を見物方々入浴に行かれた方もありました。

翌日は西岸を一路南下「八幡浜」を右手に「宇和島」市に入り昼食後南へ「宿毛」から「竜串」へ。ここでガラス観光船に乗り海底を観ながら見残し海岸に上がりアバタ岩場の連続に驚かされ、港のサンゴ細工の展示場では皆様のいい土産物を見つけたらよいようでした。足摺スカイラインを越えて岬側へ出、夕方早く太平洋へ向って建つ足摺国際ホテルへ着きました。

3日目は椿の密生林を分けて入る様にして岬の突端絶壁上の灯台に出ました。灯台からの帰路、ジョン万次郎の銅像をみて38番目の札所「金剛福寺」に詣でました。この寺は昔多くの僧侶が一人小舟に乗り、波のまにまに西海に消えて行くと伝えられ心なしかうら淋しい寺でした。

車は清水市に戻り一路東に向います。須崎の黒

潮スカイラインの頂上で、太平洋を一望しながらの昼食、高知は真直ぐに「桂浜」へ。ここは大町桂月、吉井勇、月の名所として有名。闘犬ショー、尾長鶏等を見物、市内へ入り高知城に官庁街の蘇鉄並木は見事、城は小山の上に三層六階建、天守閣へ登るのにさすか顎を出しました。幕末頃の土佐藩の歴史を忍ぶ数々の遺品が陳列されて居りました。夕方最後の宿、城西館に入りました。

22日朝食後又来年の再会を約して、楽しかった四国の旅を終わりました。

参加者はお二人連れが梅原、大谷、鈴木、今井、浜野、伊塚、武居、井上、吉川夫人、永田夫人、単身者は的場、沢井、渡辺、谷、上原夫人、石原夫人、平山夫人。写真の前列左から2人目が鹿児島島の的場、5人目が白河の大谷7人目が名古屋の沢井、9人目が東京の井上、他は昨年参加の方々ですから、参加者名と合せて探してみてください。

尚私等が東京歯科へ入学した大正11年は、壬戌の年だったので会名にもなってる次第です。来年が壬戌なので会が還暦を迎える事になります。四国でも何か有意義な企画を立てようと云う事になりました。皆様からもいい案をどしどしお寄せ下さい。そして一人でも多くの皆様とお会い出来る様な大会を持ちたいと思います。 (谷記)



更 始 会

昭和 3 年 卒

長らく同窓会報へ寄稿を怠けました小生も年のせいか膝関節ネズミにかかりまいりました。

更始会の総会も昭和26年より始めて丁度30年になりその間逝去された会員数は68名となり誠に御愁傷に堪えません。御冥福をお祈りいたします。

恒例の総会旅行も30回を迎え3泊4日の日程で京都奈良方面へお互に無理しない旅行と致しました処、40名の多数の参加となり幹事一同厚く御礼上げます。四国以来欠席の片岡君が久し振りに元気な顔を見せ、秋田の佐々木君始め一同京都ホテルフジタに集合、ホテルにて南海の明東、静岡の河村、舞鶴の浅野夫妻の出迎を受けお互いに健康を喜びあった。

第1日目は裏千家今日庵へ。400年の長い歴史と伝統の上になつ重要文化財指定の茶室と茶庭、御祖堂無色軒等を拝見し、一同席入の仕方、お菓子のいただき方等の指導をうける。

2日目は晴天に恵まれ、林丘寺方面は路幅が狭くタクシーにて出発、桂離宮を造営された智仁親王の次男良尚親王が茶道、華道、書道、画道、秀道を通して、人間完成に努力された遺跡の名勝庭園曼殊院を見学し、宝ヶ池の八新にて画家の第一人者堂本印象画伯の苦学生時代の筆になる四季の

絵の天上を觀賞しながら珍味をとる。午後は浄土宗大本山百萬遍知恩寺にて百萬遍の大きな念珠の下にて説教に耳をかたむけた。ホテルにて56年度総会を開催、先ず物故会員68名の霊に対し黙禱をささぐ、大沢座長により議事進行、千葉稲毛の校舎竣工祝賀会、大学創立90周年記念式典祝賀会の件、秋の1泊旅行、来年度総会旅行の場所日程など幹事一任にて終了。一同創業350年に及ぶ道楽にて昔ながらの京風会席料理を賞味す。建物は石田三成の軍師島田左近の邸の跡にて現在も黒光りした玄関、茶室等が残っている。

3日目は比叡山延暦寺、大津をすぎる頃より雨となる。宇治を経て金堂東西雨塔にて知られる薬師寺に着く、日頃の精進が悪いせいか雨の中にて参詣し早々に奈良ホテルに行く。最後の夕食会には千野君のお嬢様夫妻を交え盃を重ねる。

4日目は400年の伝統を誇る赤膚焼の窯元を見学、夫々土産を求める。京都にて再会を約し解散す。(清水記)

参加者 秋山、浅野誠、大沢、阿部、明葉、西山、千野、鹿島、河村、黒田、三浦、田沢、森下、曾田、片岡、佐々木、田島、清水。



珊瑚会

昭和5年卒

珊瑚会記念樹 新学園に甦る

去る5月30日、完成間近い、世界に誇り得る千葉の母校キャンパスを見学に、父兄会総会後の見学団と同行させて貰った。予て完成模型写真で想像していたものより遙かに素晴らしい新学園の建物並に近代的な内部施設は全く驚きのほかはなかった。特に同窓会が提唱された新学園の緑化運動の成果は、5万8千本に及ぶ植樹が既に終り、学園にふさわしい一大楽園的環境であった。

昭和4年4月、関東大震災後のバラック建校舎から当時東洋一といわれた水道橋の本館附属病院で最初に新しい臨床教育をうけ、昭和5年3月、栄えある第1回卒業生として母校を巣立ったわが珊瑚会は、クラス総代であった現松宮学長が中心になって、本館南側の学生通用門から入口への通路に珊瑚会卒業記念樹を植えた。しかし卒業後1年にして満州事変、そして戦局は次第にエスカレートして、遂に太平洋に於ける世界を相手の戦いとなり、その結果は無条件降伏という惨めな敗北となった。その戦禍でこの珊瑚会記念樹は焼失したが、その際の記念植樹碑は残っていた。やがてそこが大学院附属病院の敷地となり、その石碑は市川の血協記念館の庭に移されていた。

昨春、卒業50周年の記念クラス会の席上、記念事業の1つとして、同窓会が提唱された新学園緑化の主旨に協力し、個人とは別にクラスとして拠金し、その植樹計画の中に珊瑚会の記念樹をご配慮願うことにした。幸い、関係の方々のご厚意によ

り学園厚生棟側の日本庭園に、百年をこえる樹齢の立派な白梅が植樹され、その傍に珊瑚会卒業記念植樹碑も市川から移し据えられていた。この石碑は思い出深い前歯の研磨標本の形をしていて、まことに懐かしい石碑なのである。(村田秀純記)



三辰会

昭和7年卒

ここ数か月の間に、会員の計報相つぎ、今回も弔報を載せざるを得ないとは残念なことである。

しかし、他方、福島二本松の菅野将雄君が今春の叙勲に際し、勲五等瑞宝章授与の榮譽に浴されたことは、同家御一統の榮譽に止まらず、三辰会一同にとっても慶賀の至りである。

福井県三陸方面旅行

昭和56年度の旅行は、五十嵐嘉秋氏の企画により、5月29・30・31日の3日間、開催された。夫人同伴組も多数となり、総勢45名は、福井駅ビル2階の食堂に集合し、豪華バス2台に分乗して、第1日は丸岡城一東尋坊を経て芦原温泉泊り、第



2日は永平寺に向い、朝倉氏館跡を経て、越前海岸をドライブして久々子海岸泊り、最終日は三方五湖、レインボーラインを満喫して明通寺参詣で終った。

次回は、歌野原、柳両氏の担当で広島・山口県方面である。多数の御参加をお待ち致します。

単独組—阿部義久、石田英二、井比 孝、木本信義、関根友次、野上順平、浜上 恒、堀 二郎、松井隆弘、吉永達夫。 同伴組—明楽 浩、五十嵐嘉秋、歌野原静馬、大久保一夫、大津新一、加藤孝澄、近藤 昭、佐藤正夫、清水正一、城谷加寿雄、成田武雄、根岸昌三、松岡重雄、松岡四郎、宮原晋次、村居良雄、山口 弘。 以上。

(大久保一夫・清水正一記)

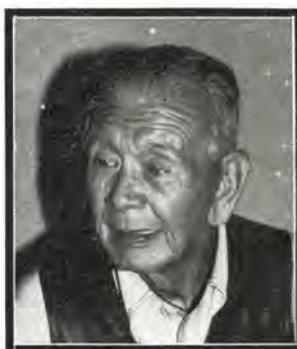
鈴木与一郎兄の御長逝を悼む



明治36年6月8日、福島県生れ、昭和7年、東歯卒業、歯科医籍昭和7年4月25日、第18578号、平(たいら)の鈴木与一郎といえ、御令息、与志昭学士(昭34・東歯卒)と共に、福島県の同窓の雄として重きをなしていた。県歯の理事、代議員、支部長など、生来の温厚篤実の性格が、誰からも尊敬されていた。一時長期に亘る入院加療という時期もあったが、これが誤診と分ると共に、治療法が変わり、倍旧の元気さで活動された。つい数年前の三辰会福島地方旅行会の折りには、卒

先、企画実行に活躍され、同級の者一同を歓ばせると共に、大いに感謝された。また本年の会合を楽しみにしていたのであったが、旧臘21日(昭和55年)午前9時、急性心不全のため、幽明境を異にされてしまった。その前日まで、診療に、事務に、平素とは変りない働きぶりであったのに、正に世は無情というべきである。享年76才。今は安らかに永久の眠りにつかれますように、御祈り申し上げます。(本間喜一)

西尾 昌兄の御長逝を悼む



同級の君の御逝去を知ったのは、静岡県歯報であった。驚ろきと共にその真偽をお宅へ電話して確かめる有り様であった。最近10年程は便りも途絶え勝ちで、健在とばかり思っており、戦前は磐田市で御尊父様と共に開業され、時にはお訪ねし豊浜海岸で夏の水泳を、或いは釣りを楽しんだ記憶があり、戦後は診療所を訪ねると、多数の盆栽、蘭・かんのん竹に熱中しておられた。その後静岡市の私宅に来られた時は清水公園内の「ピリヤード」で、学生時代を偲んだこともあった。

君は昭和7年東歯卒業後、臨床の修業を積み、昭和14年に、磐田市の御尊父様の診療を助けるため、帰郷され、活動を始められました。

昭和43年心臓肥大と動脈硬化の診断の下に、市

立病院に通院加療という事態となり、御長男義房氏は東歯卒業後、東京での実地研修を終えられ、昭和44年3月から、御息子さんと共に診療を続けられました。昭和55年4月、咽頭の痛みを主訴として、専ら食事療法を重ねられておりましたが、昨年12月5日朝、突然の脳血栓のため、半身不随の身となり、浜松医大に入院中のところ、本年3月21日、肺炎を併発、22日、午前2時、心臓の状態悪化し、不帰の客となられました。享年72才。

君は子福者で、五男一女の幸せ者で、前述の義房君は昭和41年、東歯の御卒業で、御殿父の診療所を立派に継承しておられ、二男、三男の両君は東京で建築業を、四男の方は、接骨院を市内に御開業中。五男の方は最近浜松市の他家へ縁組さ

れ、長女の方は御主人様が目下海外出張中の由、誠に申し分のない御家庭の環境で、周囲も羨やむ程であった。

昌殿の50年間に亘る、地域医療の御活躍は、名門、磐田農業高校の学校歯科医として、御尊父様の時代からの奉仕で、現在は更に、御令息の義房君に継承されているとのこと、まじめさの程が伺われる。惜しんでも余りある人材を失ってしまった。

今は、ひたすら、在天の霊の御冥福を祈るのみ。さようなら。 (大場明徳)

◇熊野千太郎氏再生不良性貧血のため、6月29日逝去されました。深く弔意を表します。

四 海 会

昭和8年卒

萩、津和野旅行記

昭和56年5月23日愈々待ちに待った山口県萩・津和野への旅行出発の日が来た。夜来の雨は未だ降り続いていた。東京駅午前10時12分発の博多行ひかり77号に東京組は乗車、元気に出発。東京を西へ西へと進むに従い次第に天候回復して来、雲の切れ目から陽光が洩れ初めて来た。途中無事。午後4時半、小郡に到着した。駅前広場に集合し一同久闊を叙し、やあやあと握手すればも早や学生時代に還った気分である。これよりバスに乗車、一路湯元温泉大谷山荘に向う途中、バスガイド嬢の説明に曰く、昔山口は毛利元成の治むる処にして120万石を領した大々名であったが、関ヶ原の合戦に豊臣方に加担して敗北したため減俸されて36万石となり、この恨みは深々根ざし後に勤王党の発起となり明治維新の基礎を築いたと云う。1時間20分にして旅館着午後7時より宴会に先立って総会を開き、物故会員に黙禱を捧げて冥福を祈り、会計報告の後宴会に移り、飲む程に酔う程に盛会裡に夜は更けて午後9時閉会。

第2日は午前8時朝食、午前9時出発。出発直前に記念撮影を行い出発。仙崎港9時半着。しらさぎ号という巡航船に乗船、島巡りに出発。所要時間1時間40分を要すという。港内の中は平穏で

したが港外に出ると流石は日本海の波濤は高く、船はローリング・ピッチングを繰り返しつつ進行。大小の石門の狭い間を通り、女性観音・男性観音を眺め奇岩様々天然の美の奇異の感に打たれつつ、多少船酔いの出た程度で船を降り無事帰着、青海島一周を終り、萩市内観光に出発。萩城址指月公園を経て吉田松蔭の史跡を訪ね、若い日の松蔭の苦痛の日々や学問に打ち込むその態度に感激しつつ萩焼の窯元に至り、種々品定めして買い求め、松蔭神社に参拝して東光寺に詣で、午後5時半東萩の萩国際観光ホテルに到着。

第3日は午前7時朝食、午前8時出発。津和野市内散策。津和野にては森鷗外の旧宅や鷗外の記念品等を参観し、静かな城下街の気分と軒下の溝に沢山の緋鯉、真鯉の放し飼いを見て、料亭“明月”に昼食を摂り小郡に午後1時半着。

一同懐かしさに別れは寂しくつらく去り難き風情。「元気に身体を大切にし又来年」と尽きぬ名残りに袂を分つ。当日参加者夫妻組、1.中尾 2.森3.平井 4.増田 5.橋本 6.成宮 7.野上 8.北野 9.小坂。単独者は1.伊東2.国沢 3.樫倉4.小早川 5.鈴木 6.門馬 7.岸田の諸君でした。(敬称略)

合計25名。 (小坂記)

仁 蜂 会

昭和15年卒

古都奈良と京情緒の旅

卒業40周年記念誌が完成して会員諸氏の手許にはすでに到着しておりますが、未着の方は幹事まで御連絡下さい。

記念誌の読後感の投稿を必ず送って下さい。

記念誌は母校、同窓会、恩師の方々にそれぞれ恵贈し、加えて逝去会員の家族には無料進呈しておりますが、連絡先不明の所もありますので気付かれる向きはお知らせ下さい。

6月の京都旅行のときの総会で、会費は年額**2千円**と決定しました。なお総会出席の会員は5年分1万円拋出しました。例のように会計は田口君ですからよろしく。加えて、本年度以前の未納会費は帳消しと決定しました。

来年の旅行は阿曾沼秀君が三陸海岸を中心としたプランニングをやってくれます。

「古都奈良と京情緒の旅」は64名参加で、例によって例の如く夫人同伴組25組と多数で極めて楽しい和やかな旅でした。特に昨年逝った臼井君の

未亡人が柳田夫妻と一緒に来られたのは感激でした。お世話頂いた佐藤健司君夫妻本当に有難う。

今度の旅行は素晴らしい想出になります。北京の柳歩青君より私に手紙が来ましたが、今秋の全国同窓会には何とか出席したいが現時点では未定とのことでしたが、一応来るものとして準備しています。彼の来日の際は愛知君の手許で東京でクラス歓迎会を立案しますので宜敷く。(堤敏郎)

出席者：足立夫妻、愛知夫妻、江里口夫妻、小野寺夫妻、大橋夫妻、斉藤夫妻、田口夫妻、平夫妻、永田夫妻、西村夫妻、柳田夫妻、古屋夫妻、松岡夫妻、棟久夫妻、村上夫妻、守夫妻、平田夫妻、森夫妻、山下(岩)夫妻、山田(力)夫妻、渡辺夫妻、有本夫妻、山田(敬)夫妻、阿曾沼、秋山、久保、加藤、堤、佐藤(俊)、佐藤(寛)、友岡、土岐、津田、小出、山下(敏)、村田、木村、中尾夫妻、佐藤(健)夫妻、臼井夫人、柳田夫妻、藤井君。



一 志 会

昭和17年9月卒

本年の旅行は「越前の里と小浜国宝めぐり」が2泊3日にわたり福井の小原勇君の尽力で行われた。福井県歯会長として多忙な中を、又18年振りの大雪にもめげず幾多の困難を克服して準備された。参加者24名、集合の芦原温泉は格調高い旅館「べにや」へ予定通り続々と集合、夫人同伴8組、遠く青森の安田夫妻始め久し振りの田尻誠之助君、やあやあしばらくとロビーでの歓談は還歴のレットルも忘れて角帽時代に早替り。湯上りの懇親の席では歓迎あふれる挨拶が小原君よりあり一同乾盃、級友の絆が更に強く結ばれた雰囲気、互に健康での再会のよろこびをかみしめ会う。太鼓等の余興も加わって宴も最高。やがてのお開きも名残り惜しく、歓談の続きは早速全員がホテルの「バー」へ直行、何回もの乾盃の中、同伴組は次から次へとカラオケのマイクの奪い合い。御夫人方の歌唱力に男性陣たじたじ。今回旅行のハイライトは御夫人方のリードによって夜の更けるのも忘れて展開されて行く。第2日からはデラックスバスによって先づ真言宗の名刹滝谷寺の見学、次で小原君の地元丸岡へ、日本最古の天守閣を持つ丸岡城を仰ぎ400年前をしのぶ。次で天下に名高い曹洞宗大本山永平寺へ。山門にかけられた左右の聊、殊に「家庭嚴峻陸老の真門より入るを容さず」の名句は一同最も印象的であった。永平寺

副監院峯岸応哉師の心打たれる法話に生き甲斐を感じ、平和に生きるものに感謝の念を沸き立たせる。次で三百畳の大広間での精進料理に禅の道、修業僧の厳しさを一同黙々と味わう。小浜への途中両側の杉林や竹が雪によって裂けて折れているのが到る所で無数に見られ、数十年かかって育った銘木の無残さに雪害の恐ろしさを見る。出発前或る友人から敦賀の方へ行ったら放射能の魚でも食って来いと云われて来たが車窓から見る現地は風光明媚の自然境。放射能汚染の恐ろしさなどは微塵も感じられない。第2夜の小浜も現地の古典民舞に続いて昨夜に劣らぬカラオケ大会、安田、西村両夫人の熱演に旅情はいやが上にも湧き立つ。

第3日目は遊覧船による若狭湾の奇岩群「蘇洞門めぐり」。続いて神宮寺、気比神宮等信仰深い福井地方を充分堪能。レインボーライン経由で終着の敦賀駅に到着、解散となった。思い出多い旅行を準備して下さった小原君、そして協力を惜しまなかった西村寛猛君、宇野正一君に感謝申上げる。

参加者（同伴組）安田良造、塩田一二、佐野襄介、藤田彦平、西村寛猛、神田秀彦、飯島皓、小原勇。（単身組）三村力松、関口敏彦、宇野正一、岩淵健治、豊浦弘道、田尻誠之助、佐々木進、野口春治。（野口(春)記）



51 期 会

昭和20年9月卒

学友杉山忠直君の一周忌法要

去る5月2日永林寺で故杉山(忠)君の埋骨と一周忌法要が行われ、東京と神奈川の学友21名が参列し彼の在りし日の生前を偲んだ。

本年度51期会総会開催の報告

北陸地区ブロック代表富山県の千保君、石川県輪島の角君、福井県勝山の白崎君等の主催で去る5月22日加賀温泉郷山代温泉百万石ホテルで総会と懇親会が盛大に行われた。卒業後36年ぶりに再会した学友もおり全国各地から参集、なつかしさに溢れ旧交をかわす会話にも花が咲き実楽しさ一杯であった。桜井代表幹事開会挨拶後、逝去された丸森君にもくとう。昨年総会でお世話になった波多野君に御礼を述べ地元世話役千保君挨拶、橋高君と高橋(庄)君の祝電開陳後、秋の例会は母校千葉校舎見学を11月に病院長高橋(庄)君のお世話で行う予定、多数参加を希望し大いに期待したい!会務会計報告後、現幹事は年内一杯で任期満了のため幹事交代で来年度から酒井君が代表幹事に内定し抱負の挨拶、又今年より5年間還暦

祝を継続、5名の学友(芳賀、五十嵐辰、富村、前田、片山)に対し記念品贈呈を行い、橋高君広島県議出馬の現況報告51期会として支援する様決定、ご健闘を祈る!!来年の総会は中京地区、愛知県ブロック代表名古屋の中川君、川崎君、安倍君、三重県四日市の門脇君等のお世話で開催と決まり、川崎君から概略説明があり多数学友参加出席を要望、今から大いに期待したい、やがて高石君の乾盃音頭で華麗な宴会が始まり大木君、角君、高石君、井上君の十八番が披露され、万来の拍手をおくる。五十華会の奥様も負けじと興趣を盛りあげ夜の更けるのを忘れ、終始なごやかに楽しい一夜をすごした。色々準備万端つとめてくれた千保君に厚く御礼を申し上げます。

総員49名。同伴：牧、高石、酒井、川村、片山、遠藤、井上、宝諾、波多野、大木、白崎、桜井、橋本、早川、単身：中林夫人、芳賀、五十嵐(辰)、井本、岩崎、角、上脇、川崎、正木、増田(一)、三輪、村岡、永井、中川、中村、並木、千保、田上、鶴岡、土屋、米津。(鶴岡記)

い づ み 会

昭和23年卒

大坪隆壽君の死を悼む



青春時代の心友、大坪隆壽君の悲報に接したのは昭和55年12月12日、平塚の秋山欣勇からの突然の電話であった。最近数年間彼とは年賀状以外に交信はなかったので、肝硬変で亡くなられたと聞いたときは本当にびっくりした。佐藤勝也君、三宅直晴君のお話によれば彼は以前も肝臓が悪く入

院された事があり、この一週間前に又突然入院され、腹水がたまって大分苦しまれたそうだ。彼は車にとえればエンジンも何もぼろぼろになっても、しゃにむに働いていた状態であったという。お嬢さん二人を松本歯大に入れ、病身を押して頑張っていたのだそうだ。

大坪さん、君は本当にいい奴だったなあ、激動の学生時代に色々な良い思い出を残した青春。数少ない良書を交換して、むさぼるように読んだ日々、ベートーベンやチャイコフスキーをよく聞いたね。又君は美校の友人岩淵君との絵の交流もあった。大家村メッチェン、市川グランドで仮装行

クラス会だより

列の時女装した思い出等々。

今いづみの根元の一人大坪隆寿君は逝った。我々もいつかは逝く身、唯あまりにも彼は早かった。心残りでしょうが我々友人が力になって、二

世が立派に後を継がれる日をあの世で好きな酒でも飲んでゆっくり眺めていてくれ、彼の霊よ心安らかに眠ってくれ。
(荒巻 滋)

一 期 会

昭和28年卒

大森清弘君の急逝を悼む



一期会大森清弘君が急逝され、昭和56年7月17日御家族による葬儀が千歳船橋の浄立寺でしめやかに行われた。その折、一期会を代表して惜別の辞を捧げ大森君の御冥福を祈った。

去る7月13日君の訃報に接した時は啞然として

言葉も出ませんでした。

昭和28年東京歯科大学一期生として卒業以来、大学の口腔外科学教室に残り研鑽を重ねて教授となられ、医局の中心となって学生指導をされる多忙にも拘らず2年間クラス会長として本当に御苦労さまでした。

ありし日の君の洒脱な話し方、邪気のない笑顔一つ一つが思い出されます。黙々として勉学にいそしみながら何を云われても怒らず、威張らず、その上に減法世話ずきでしたね。君とはまた飲み

友達でいろいろのことが心に浮びますが、もう再び君は居ないと思うとまことに淋しい限りです。先月16日のクラス幹事会には出席されず、不審に思いましたがその時は既に病魔におかされていたとは、あとで22日に突然入院され病状が思わしくないと知らされ12日に病院に見舞った時には、既にことばを交す事も出来ず本当に断腸の思いでした。

千葉に立派な新校舎が設立され、これからと一期生全員が期待していましたが、君が逝かれたのが残念でなりません。大学にとっても大きな損失であります。

君を失って淋しくなりましたが、一期会は今後益々融和団結して歯科医療の発展に尽力する覚悟ですので、いつまでも見守って下さい。

残された御家族に対しましては吾々クラス会一同できるだけ御支援致す所存しておりますので、どうか安らかに。

ここに東京歯科大学一期会を代表して心から哀悼の意を表します。
(津島秀雄)

四 期 会

昭和31年卒

4半世紀が瞬く間に過ぎた。卒業後25周年を迎えて多くの諸兄姉の子弟がオタマジャクシとなって勉学に勤しんで居る。

この7月にはあの懐かしの校舎が水道橋から消えてしまう事に一抹の寂しさを皆が感じて居る事と思う。

50の坂を迎えてそれぞれ“太目”“白目”“薄目”

とはなって居たが、東は網走の田山君夫妻から西は宮崎の西山君まで、昔日の面影そのままに、紅二点を含め、総勢37名(奥方4名)が、大いなる田舎名古屋の郊外、日本ラインの畔、犬山観光ホテルへ6月13日夕刻、続々集結し、お互いに肩を叩き手を握り合った。

ゴルフ組は前夜より、名古屋駅前のグランドホ



テルに投宿して居り、総会に先立って犬山C. C. に於て9時ティーオフ、時々小雨の訪れる緑滴るフェアウェイの中へ5組18人が次々と消えて行った。

結果はダークホース千葉県荒井茂君が近来の不調を克服し見事優勝、2位は昨年優勝の水城八郎君、3位は唯一人2回優勝経験者太田寛君と続き、栄あるブービー賞は大阪より参加の高橋潔君、ベストグロスはシングルで実力者の千葉重博君が獲得し、和気藹々の裡にゴルフ場食堂にて表彰式を行う。

全員夜7時に大広間に集合、太田君の司会により25周年総会が開始された。氏家会長挨拶、水城君の会計報告の後、つい最近亡くなられた、宮山尚君に黙禱を捧げ、土子君より彼の病状経過について説明があった。次いで、愛知学院の理工学教

授に就任した長谷川二郎君に、記念品の贈呈で総会を終り、後は遠来の園田君の音頭で乾杯し宴会となり、徐々に席は崩れ、三々五々の円陣が、そこかしこに出来9時過ぎの写真撮影によりお開きとなる。

明けて14日、20人余の希望者が日本ライン下りの水飛沫を浴び、次いで明治村へと移動し、流れ解散しながら25周年総会は終わった。

総会出席者(敬称略)：安藤、秋山夫妻、荒井、井上(執)、伊藤(剛)夫妻、伊藤(成)、今井、岩田、氏家、梅原、大泉、太田(寛)、岡田、鬼久保(越川)、加藤、神田夫妻、後藤、高北、近藤、佐々木(栄)、田代、田山夫妻、千葉、土子、寺門、中島、西山、野口、古田、松本(功)、水城、木村、国府田、園田、高橋(潔)、長谷川、原田。
以上。(岩田記)

すいどうぼし

会員寄稿欄



血脇守之助先生大いに怒る

井上 眞（名誉会長）

一昭和15年11月2日開催の、母校創立50周年記念並血脇校長謝恩式典に於ける、金杉英五郎先生の祝辞の一節より一

私が始めて血脇守之助校長を知りたるは、明治28年の秋であったと記憶するので、丁度校長が高山歯科医学院の講師兼幹事時代であったと思われませんが、時恰も秋冷の候なりしにも拘らず、垢つきたる単衣に羽織袴無しの一巨漢が親友川上元治郎氏の紹介状を持って来訪した。

其の態度は穏和沈著、其の言ふ所は毫も虚飾なく、懇々と其の所思を述べるのであった。私は此の初対面に於て其の前途有望の紳士たるを直感し所謂一見旧の如き思いを為したのである。是れが第3期であります。高山歯科医学院勤務の後明治31年清国に渡った。其の目的は清国事情視察と云う大抱負もあったであろうが、一方には清国民に歯科治療を為し、其益金を以て将来継承せんとする医学院の資金に宛てんが為めの心積りではあるまいか。

所で世人往々其の外貌の温和なるを見て唯柔一天張りの人とのみ想って居るものが多いようだが、実は其内面の剛気なる事は世にも稀なるものである。往年私が札元となって近衛霞山公を擁し、今日にて申せば新体制確立を企図せんとしたる当時の事であるが、某年某月某日、芝の紅葉館

に近衛公を中心とする有志懇談会を催したる事があった。集まるもの富井政章、後藤新平、神鞭知常、鎌田栄吉、尾崎行雄、陸実、秋山定輔諸氏を始め30名程であった。

何れも会費不払、大言壮語の常連ばかりであったが、例に依って牛飲馬食に伴う高論卓説は各方面に起りつつありたる真最中に、因らずも座の一隅に大活劇が現われた。而して其の一方の相手が血脇校長であり、一方は後年政界に名を為し、大臣に迄も為った某氏であった。満座認めて以て最も柔和なりと信じたる血脇校長が某氏の禿頭に鉄拳を見舞う事数十に及んで起つ能はざるに到らしめたのであるから、全員の一驚を喫するのも無理はなかった。其の節尾崎氏がえらい事になりましたねー、平素柔和なる血脇君がかくも憤怒し、鉄拳を喰わしむるに到ったに就ては、どうも打たる方に悪い事があったのだらうと、一流のすましたる態度を示したる事は今日尚私の眼と耳に残って忘れ難いものがあります。其の節私は札元として此の出来事を冷視するわけにも参らず、其の因って起りたる事情を訊問に及びしに、血脇校長の答に某が非常識極まる言論を弄したのでぶちめてやったら、無礼千万にも、歯医者癖に生意気だとぬかしやがったので、問答無益となぐり飛してやったわけだ。唯血脇個人に対して馬鹿だとか、生意気だとか云うのなら何度いわれても

鉄拳を揮うが如き蛮気は出さぬが、歯医者癖に我等の神聖なりと信ずる科学を毀損するに於ては学科擁護の上よりして容赦ならぬと考えたのでこの拳に及んだのである云々というのであった。其の時血脇校長の科学特に歯科医の地位擁護に忠実なるに感服したのは私のみでなく、後藤、鎌田

両氏も亦血脇校長の方へ団扇を揚げたのであった。右の如き剛気は血脇校長の如き自己の領域擁護に熱烈強硬なる人でないと出来ぬ事にて、是れは一場の戯談として聴過する事なく、永く歯科界に銘記す可き美事なる可しと信じられるので御披露に及ぶ次第であります。

「血脇先生記念館」の設立を切望する

——適塾（緒方洪庵先生）を訪れて——

堤 敏 郎（昭和15年卒）

わが母校が今夏には90年の歴史を持つ水道橋の校舎から新しい稲毛校舎に移転とあって、期待の喜びと共に一抹の淋しさも交々である。それについても、水道橋の校舎はどうなるかと同窓は案じている。早く水道橋の青写真を知りたいもの…。

近頃の若い同窓間で「血脇イズムとは何か余り分らぬ」という声もあるようで、老婆心ながら秃筆だが、たまたま大阪北浜にある緒方洪庵先生の適塾を参観して感慨めいたものを得たので寄稿する次第である。

正しくは適塾齋塾で洪庵先生25周年の開塾の間に全国から約千人の門弟が教えを受けている。その中から、橋本左内、大村益次郎、福沢諭吉、大鳥圭介、長與専斎、佐野常民、高松凌雲、池田謙齋など俊英雲の如く輩出し明治維新の大業にその原動力となって活躍したのである。洪庵先生を始め前述の先覚者たちの遺品に接して、「私学教育こそ本物の人物教育の場である」と喝破し、昭和

初頭にわが東京歯科が官立になるか私立で通すかといった時に血脇先生があえて後者の道を選ばれた慧眼に今更の如く、私には深い感銘を与えられた。

血脇先生は福沢諭吉先生の門下生として、官尊民卑の弊風強い明治期に、独立自尊と近代実学の確立を念じられた福沢先生の遺志を体して、近代歯科医学を日本に樹立すべくその生涯を捧げられたのである。

ここに緒方洪庵—福沢諭吉—血脇守之助といった「私学を誇り」とする精神的系譜の一大底流をみるのである。この厳然たる歴史的事実を私は直視再認識して欲しいと思う。

「血脇イズム」とは少なくとも私にとっては一つの誇りである。人間は誇りを喪失すると動物同様になり、また余り誇りを持ち過ぎると鼻持ちならぬ存在となるのでその辺仲々難かしいが、この伝統の重みある誇りをわが同窓は充分玩味して頂きたいものである。

権力に媚びず、富貴に淫せず、名利に捉われず、ただ専一に医に生きた洪庵先生のその生涯とその教育は福沢先生を介して血脇先生に継承された。今その血脇先生を偲ぶとき、私は水道橋校舎が再建される場合、何としても「血脇記念館」の出現を切望する次第である。「医はこれ濟生ひとえに仁なり」と校歌を高らかに永遠に叫びたいものである。



「人に役せられず、物に役せられず、己の適と
するところを適とする」(莊子大宰師編)によっ
て適適齋と号された洪庵先生の適塾を参観して、
恩師血脇先生を偲ぶ余り輩出する若い同窓のため

また後の世の人々のために私は大学及び同窓会当
局の方々に「血脇記念館」設立の要望を呈上する
次第である。暴言多謝。(昭和56年7月1日記)

「コンニャク会」姉妹校フロリダ大学を訪ねる

酒井 福 義 (昭和39年卒)



「コンニャク会」のメンバーは4月24日夜、日
本を発ち、アメリカ各地を観光して、28日夜ア
メリカ東南部のゲインズビルに到着した。

午後10時30分空港には、金子、薬師寺、岸3助
教授が出迎えてくれました。3助教授は、昨年東
京歯科大学と姉妹校を結んだフロリダ州立大学歯
学部客員教授として先きに現地入りしていたも
のです。この姉妹校には、我校の海外派遣医局員
が1ヶ月以上逗留することになった第1陣だった
わけです。我々はヒルトンホテルに直行し、翌日
は待望の姉妹校見学でした。午前11時、部長室で
初めてアレン歯学部部長にお逢いしました。その
お人柄は先に現地入りした金子君の話や、同窓会
会長河辺先生のお話で、相当な人物とは考えてい
ましたが、直感的に大きな、暖い人であり、実務
家肌の人と思われました。全員が席につくと、
「遠い当地まで良く来てくれました」と長旅の労

をねぎらっていただき、「私の発音が間違ってい
るかも知れませんが、どうぞ先生方御自身で正しい
発音を教えて下さい」と言われ、Dr.金子、Dr.
谷、Dr.岩柳、Dr.金井、Dr.片倉、Dr.二宮、
Dr.酒井、Dr.島田と「コンニャク会」の一人一
人のローマ字を読み上げて下さいました。ゆった
りとした口調としっかりと我々を見詰める目は、
大人物に触れた喜びを禁じ得なかったし、鞘に納
めた、いつでも抜ける名刀と言った感じがひしひ
しとこの身に迫ったものです。歯学部最高責任者
でありながら、私達に時間をさいてくださったこ
と、3助教授の家を御自身で探してくださったこ
と、金子君が初めて空港に着いた時、御自分の車
で出迎え、その家まで送っていただいたと聞いて、
心を打たれました。

学内の見学で、一番印象に残ったことはその教育
システムの特異性でした。学生の為の授業は第

1学年のみで、それ以後は、学生自身の勉強によると言うもので、その為の教材や図書室の完備は当然としても、やはり、驚きに耳を疑う程でした。

「ジャパンナイト」——この日の午後8時、大学の近くにある中国料理店で行われたパーティーです。お迎えしたお客様は、フロリダ大学歯学部部長アレン夫妻、副部長シュリーブ御夫妻、口腔外科主任レボビッ教授、小児歯科主任ベネット教授の方々でした。主催は、同校に客員助教授として招かれている麻酔科の金子助教授と学生時代からの遊び仲間の「コンニャク会」という8人の同級生でした。それとこの時期、同大学におられた薬師寺、岸両助教授と京大から来ておられた堤先生に加わっていただきました。

我々、「コンニャク会」の会長谷君の英会話も相当なものの、全員の為に2人の通訳を用意してもらったことは大成功でした。長野から持って行った地酒の徳利とおちょこで日本酒の飲み方を説明、実演した片倉君もかなり出来上っていたし、話題が「将軍」になると、シュリーブ副部長は徳川家300年はすごいと感心され、未だ見たことのない日本へ是非出掛けたいと言っておられました。御婦人方は、私達の持っていったスナップ写真を見ながら、子供達の制服は、公立校と私立校ではどちらが多いのですか？とか習慣や食べ物のことに話が発展しました。3時間のパーティーもあっという間に過ぎ、夜11時になったので日本からのお土産を先生方に着し上げ、最後に「コンニャク会」会歌の「人生賛歌」を全員で歌いました。

アレン歯学部長が、金子君の肩に手を置き、「君は本当に良き友達を持って幸せだね、素晴らしい!! 本当に楽しいパーティーを有難とう」と言われた時には遠くまで来た我々の疲れも忘れてしまいました。更に「是非、我が家に来てくれ」と言われ夜も遅いことだと一旦は遠慮しましたが、結局4台の車でお邪魔することになりました。この日の午後、大学の先生方とゴルフをされた由で、かなりの腕前の様です。それもその筈、先生のお宅は庭続きでゴルフコースになっている素晴らしい所でした。お部屋には我が校のペナントが飾られてあり、松宮学長の御家族の写真も見せていただきました。5～6本の洋酒を飲みながら、話が美術に及ぶと、美術部出身の金井君を次の部屋に呼び寄せ、「私の7才の折に画いた絵を見てくれ」と案内したりで夜中の12時半にもなってしまいました。

帰りには「明朝8時15分から教授会があり、日本の3先生を紹介する時間があるので、大変疲れているだろうけれど、全員で出席しませんか？」と言っただき、出席させていただくことをお約束しておいとましました。

翌日の教授会では、金子君が大学の紹介、医局や個人の業績発表をしましたが、多くの先生方にも、日本の姉妹校を紹介する良い機会だった様です。特に彼の説明は専門家の英語で仕上げられていたことは印象が良かった様です。もっと数々の報告をしたいのですが姉妹校フロリダ大学歯学部の多くの先生方にうけた暖かいおもてなしに感謝しつつこの稿を終ります。

◆原稿応募規定

原稿締切りは奇数月の10日で、原則として翌月発行の会報に掲載いたします。

投稿は原稿用紙に横書きでお願いします。便箋などのご使用はご遠慮下さい。尚この会報専用の原稿用紙(22字×10行)も準備してありますから、必要な時に請求して戴けば、お送りします。

随想、詩、短歌、時評など、寄稿は1編1,500字以内ぐらい、クラス会だよりは700~800字程度でお願いします。よろず告知板も、ご遠慮なく御利用下さい。

折角ご寄稿戴いても、規定字数を超える場合は、掲載いたしかねる場合がありますのでご諒承下さい。

「私のアルバム」の材料などは、ほとんどの皆様がお持ちと思います。簡単な文章をつけて是非ご提供下さい。また古い思い出の写真など、お貸し願って誌上で昔のよしみを温めたいと存じます。

原稿及び写真は原則としてご返却いたしません、特に貴重な写真などの場合はその旨お書き添え下さいればご返送申しあげます。

◆へんしゅうこうき

☆ 井上眞前会長から河邊清治現会長へと引き継がれた同窓会創立80周年記念募金事業は本年6月30日目標額の10億円をゆうゆう突破しました。全国同窓の永き良き伝統の底力と母校愛を天下に示した快挙です。もちろん、執行部、実行委員、支部長各位のご努力とご苦勞の結集によるものであることも銘記すべきです。慶祝。

☆ 千葉校舎に期待すると題した座談会は、基礎系4教授による教育、研究、国際交流等について同窓に強く語りかけています。その原点から将来展望にたつて実践論を真摯に活発に展開した教典です。稲毛という大キャンパスに胸はふくらみ、熱意とエネルギーを最大限にぶつけて行こうとする気魄が紙面からはみだしています。

☆ 新春199号以来毎号お知らせの頁に記載していますが、11月初旬の評議員会・総会・懇親会は東京の高輪プリンスで、そして、記念すべき母校の祝典は千葉校舎と会場は離れますが日程は連続しています。ちょうど、保険請求事務の時期に多少重なりますが今から準備を願います。千葉の秋空をすばらしい盛典の花で飾れるよう期待しています。

☆ 昨年は冷夏で腐心し、本年は酷暑で精神異常者の発生が多く、マスコミ攻撃も異常なものの一つです。残暑も同様一向に衰えず秋の気配すら感じられません。このような時季こそ十分健康にご留意下さい。或る意識調査では、健康が人生最大の欲望であると発表していることはご存知の通りです。

(梅田 記)

広報担当理事：中村泰之、溝上隆男、松川健二、伊藤 哲、白崎源有、林 幹雄、馬嶋博、野上順平
 広報部委員：中久喜喬、梅田昭夫、倉橋和啓、山本啓介、櫻井善忠、薬師寺仁、松井恭平、林 量一

昭和56年8月15日 印刷

昭和56年8月20日 発行

東京歯科大学同窓会会報 第202号

編集・発行人

中 村 泰 之

東 京 歯 科 大 学 同 窓 会

〒101 東京都千代田区三崎町2-9-18

電話 (03) 262-3421 (内線 226)

(03) 264-4859 (直通)

印刷所

一 世 印 刷 株 式 有 限 公 司

東京都新宿区下落合2-6-22

電話 (03) 952-5651 (代)

高輪と品川、ふたつのプリンスホテル

両プリンスホテルは、東京歯科大学同窓会の皆さまに特別サービスをご用意して、ご利用をお待ちしています。



由緒ある日本庭園を配して緑の中に静まる高輪プリンスホテル。500の客室、10をこえる各種レストラン、バー。つねにプリンスホテルならではの、まごころをこめたおもてなして内外のお客さまをお迎えし、真のくつろぎを提供いたしております。



都内でも有数の設備を誇るスポーツランドをはじめとして、のびのびと楽しめる新しいタイプのホテル、品川プリンスホテル。ビジネスでのご利用はもちろん、ご旅行にもご家族でのレジャーにも幅広く、気軽にご利用いただきたいホテルです。

●ご宿泊●

特別割引料金にてご利用いただけます。

ご予約は、会員専用の予約直通電話をご利用ください。

高輪プリンスホテル (03)445-1855 品川プリンスホテル (03)449-3581

★上記専用電話以外のご予約につきましては、特別料金によるご宿泊は、できませんのでご了承ください。

●ご婚礼●

同窓会の皆さまと皆さまから紹介いただいたご婚礼に対して、

各種のサービスがございます。

サービス適用ホテルは、高輪プリンスホテル・品川プリンスホテル・麻布プリンスホテル・白金プリンス迎賓館です。

★ご予約の際は必ず東京歯科大学とお申出ください。

 **高輪プリンスホテル**
東京都港区高輪3-13-1 ☎108 TEL.(03)447-1111

 **品川プリンスホテル**
東京都港区高輪4-10-30 ☎108 TEL.(03)440-1111



金属焼付ポーセレン用金合金

KIK HARD II

- 硬度が210Hvと硬く、長いブリッジ・うすいクラウン等にも最適です。
- 流動性が優れており容易に鑄造できます。
- 焼成回数を重ねてもメタルの変形はほとんどありません。

主成分 金73%・銀2.8%・白金13%・パラジウム9.7%

諸性質 ● 溶融温度1240~1290℃ ● 比重17.8 ● 鑄造収縮1.34

	硬度Hv	引張強さ kg/mm	伸び%
鑄造時	180	44	5
グレース時	210	46	5
硬化時	225	48	4

KIK ポーセレンの他 VITA・CERAMCO等のポーセレンに使用できます。

石福金属興業株式会社

歴史が創り上げたユニットの傑作。

歴史の積み重ねは、私たちに
 知らぬ間に多くのものを与えてくれました。
 スタッフもまた、歯科診療の歴史とともに歩み
 び、生かし、創り上げて70余年を過ぎました。
 永年ご愛顧いただいたマルチエイトシリーズ。
 時代の結論として誕生したのが、ザ・マルチです。
 フォホワイトと、ブルシャンプレーのツートンに、
 切れ味の鋭さをたたえています。
 語らずとも、きっとお判りいただけるはず。
 その繊細で忠実なつくりは、
 ドクターの心をマスターした
 珠玉のユニットです。



ザ・マルチ

詳しい資料は下記へご請求ください。

◆ 株式会社 **ヨシダ**

〒110 東京都台東区上野7-6-9 ☎03-845-2911(代)

◆ 株式会社吉田製作所

〒130 東京都墨田区江東橋1-3-6 ☎03-631-2191(代)

予防歯科の時代です！ 一歩リードしたスクーリングに ネオ・オーラルハイジーンセットを！！

(用途)

- ・スクーリング後の研磨
- ・ルート サーフィス プレーニング後の根面研磨
- ・支台歯形成面の研磨
- ・修復物表面の研磨
- ・Z S 除石施行に際しての使用には最適です。

(特長)

- ・常に一定したペースト状態で使用でき操作性が良好です。
- ・回転器具を使用しても適度な粘りがあり飛散しません。
- ・使用后、スプレー洗浄で容易に除去できます。
- ・歯肉や軟組織に障害を起さず、無害で毒性はありません。
- ・あらゆる修復物(コンポジット・アマルガム等)及び義歯床の仕上げ研磨に賞用されます。

ネオ・オーラルハイジーンセット

- ・粗研磨材 スクーリングクリーム・アドネスト 50g 瓶入
- ・仕上げ研磨材 ネオ・ポリッシングクリーム 50g 瓶入
- ・発売記念として ネオ・フィンガボール2個プレゼント



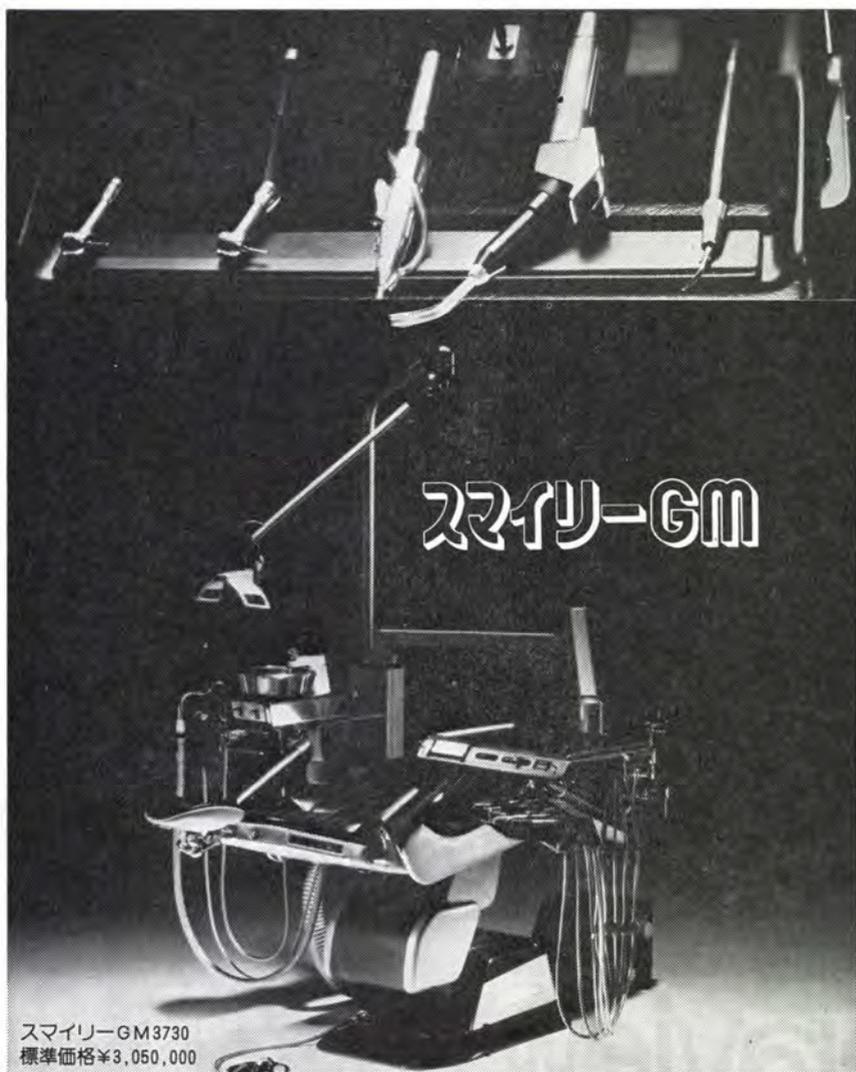
製造発売元

東京都渋谷区広尾3丁目1番3号



ネオ製薬工業株式会社

オサダの機械に対しての熱意と真剣さを今、お確かめ下さい。
自慢のインスツルメント群にミュースケラー(超音波歯石除去器)を内蔵して、さらに工夫が光るスマイリーGM。



スマイリーGM

スマイリーGM3730
標準価格¥3,050,000

ドクターの診療効率を追求した
オールマイティのスマイリーGM

常に歯科機械のあり方を、身をもってリードしつづけてきた歯科機械のオサダ。そのオサダが「心のふれあう医療、心のかよいあう医療機器」を心から願い、本物を尊ぶ先生のために、上品に、丁寧に創りあげたデンタルユニットが、
「スマイリーGM」です。

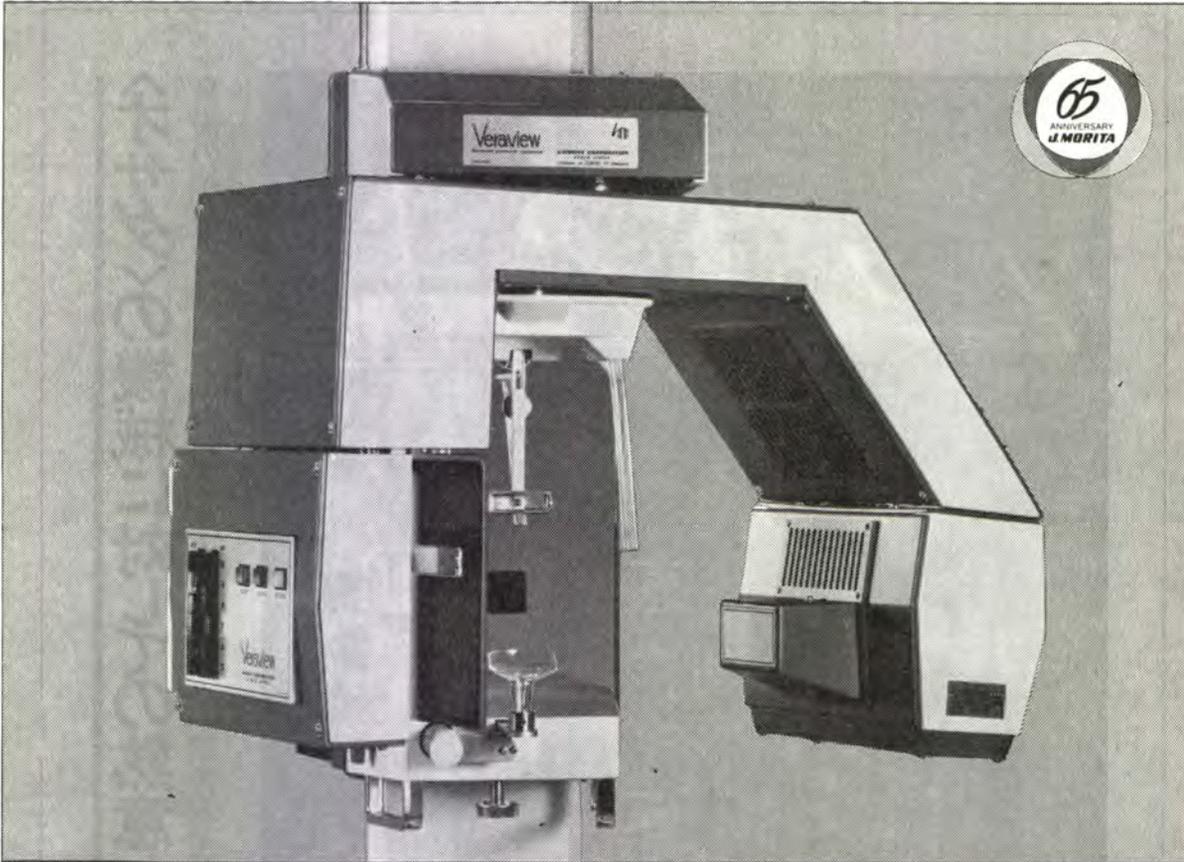
オサダ独自の技術で質の贅沢を極めたインスツルメント群に、ソフトタッチで従来品より効率もよく沈着物を取り除き、ハンドスケラーとほぼ同じ重さのミュースケラーを内蔵した4機種を新たに加えて「ドクターの診療効率を徹底的に追求したオールマイティのデンタルユニットです。」



長田電機工業株式会社

オサダの歯科機械

東京都品川区西五反田5-17-5 電話03(492)7651代



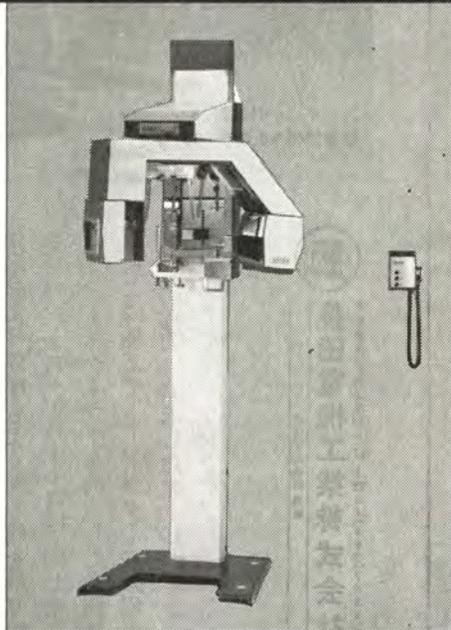
技術の差が、いま影像に。

Veraview

歯科用パノラマ直流方式X線装置

- 強力で安定したX線照射を約束する直流方式。
- 患者の被ばくX線量を減少させた連続照射。
- 強力なエネルギーで断層幅が厚く、鮮明な映像。
- シャープな影像を結ぶ、鋭焦点(0.5×0.5mm)X線管。
- 患者位置づけは、正確で容易。
- 据付面積は最少 (1.07×0.995=1.06㎡)
- 重量は190kgの軽量。

J.M.パノラマX線装置 ベラビュー 標準価格¥2,600,000 昭和56年2月20日現在



株式会社 **モリタ** / 東京都台東区上野2丁目11番13号 〒110 ☎(03)834-6161 / 大阪・吹田市垂水町3丁目33番18号 〒564 ☎(06)380-2525
 北海道☎(011)742-3507・名古屋☎(052)741-5461・京都☎(075)241-3131・瀬田☎(06)251-2525・広島☎(0822)91-3531・福岡☎(092)411-9162・北九州☎(093)921-538
 盛岡・仙台・新潟・横浜・静岡・岐阜・金沢・滋賀・宇治・宮津・和歌山・田辺・神戸・岡山・米子・高松・徳島・熊本・長崎・鹿児島

株式会社 **モリタ製作所** 京都市伏見区東浜南町680番地 〒612 ☎(075)611-2141 / 京都府久世郡久御山町大字市田小学新珠城190 〒613 ☎(0774)43-759

株式会社 **モリタ東京製作所** 埼玉県与野市上落合355 〒338 ☎(0488)52-1315

GC

今日から白歯にもマイクロレスト

疎水性の新しい合成モノマー採用の超微粒子フィラー修復材＝マイクロレストの登場で、いま歯冠充填の常識が大きく変わろうとしています。
タイプを選び、前歯はもとより白歯にもご利用ください。

マイクロジャー《臼歯部用》

臼歯部専用のレジン修復材。疎水性モノマーに超微粒子フィラーを重量比で60%以上も混入させることに成功——ついにアマルガムに匹敵する強度を実現しました。しかもレジンなので硬化が速く、修復は即日完了。また優れたボンディングシステムによる辺縁封鎖により、二次カリエスの心配が少なく、信頼性の高い修復が行えます。

●価格：¥26,200(昭和56年8月現在)
※発売記念サービ価格：¥23,600(6ヶ月間)

新発売**大好評**

●価格
3-2セット ¥15,200
1-1セット ¥6,000
(昭和56年8月現在)

マイクロシリンジ

発売以来、その驚くほどの滑沢性と歯質調和性から、前歯部充填に最適な修復材として好評のシリンジタイプのマイクロレスト。従来のコンポジットレジン約1000分の1という微細なフィラーと、色素沈着を起こさない疎水性モノマーの採用により、審美性は抜群。いつまでも、その美しさを保ちます。

近日発売

マイクロジャー《前歯部用》

マイクロレストの第3弾。ぜひご期待ください。

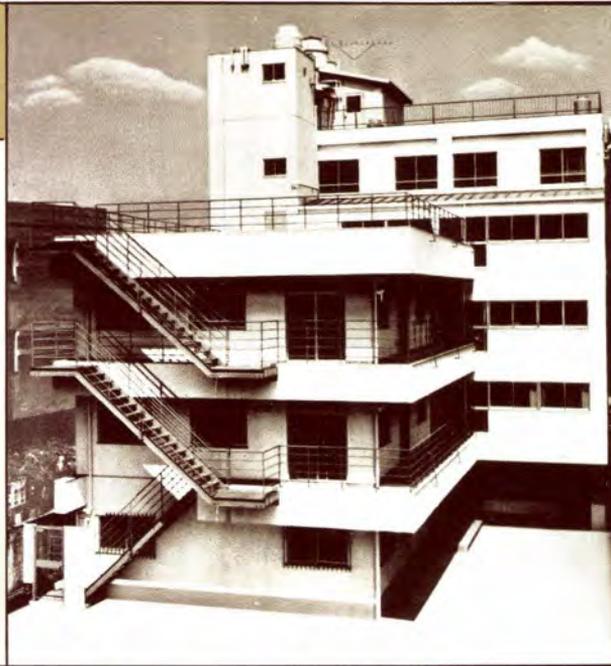


而至歯科工業株式会社 デンタルインフォメーションセンター
G-C DIC
〒113 東京都文京区本郷3-2-14 Tel.03(815)1511 ●東京DIC 03(816)6480(直)

お問い合わせ先 ●北海道DIC 011(271)7373(代) ●東北DIC 0222(71)8757(代) ●名古屋DIC 052(703)3231(代) ●大阪DIC 06(771)4682(代) ●広島DIC 0822(55)1771(代)
●九州DIC 092(441)1286(代) ●新潟出張所 0252(84)6622 ●徳島出張所 0886(25)8244 ●長崎出張所 0958(47)6104 ●鹿児島出張所 0992(68)0070

歯科技工学科

理事長 歯学博士 大塚 昌助
 校長 歯学博士 大塚 弘介
 顧問 東京歯科大学 松宮 誠一



東京歯科技工専門学校

TOKYO DENTAL COLLEGE OF TECHNOLOGY

〒141 東京都品川区西五反田5-1-10(東急目蒲線不動前徒歩2分) TEL 03(492) 4221(代)

画期的な新製品の御案内

金を含有しない経済的でゴージャスな陶材焼付用セミプレシャスメタルの決定版

歯研パイロン

パラジウム・銀系
 セミプレシャス
 陶材焼付用合金

特 長

- ① 溶着力はゴールドボンディングエイジェントとの効果が相乗するので、従来品に比べて極めて優れています。
- ② 歯頸部や肉薄の部分の色調(色相、彩度)は、指定通りに再現され自然感を失わず、審美性に優れています。
- ③ 比重がプレシャスメタルの2/3ですから、フルマウスで10g以下という驚異的な軽さで、一歯当り0.5g以下も可能です。
- ④ 適合性、铸造性、機械的性質が何れも従来品(Pd-Ag系)よりも優れています。
- ⑤ 金を含有していないにもかかわらず組織親和性に優れています。
- ⑥ 前ろう、後ろうが共に容易です。
- ⑦ 陶材を選びません。ヒタには特に適しています。
- ⑧ 熱膨張ヒステリシスが小さいので焼成後のメタルの変形がほとんどありません。
- ⑨ 切削や研磨等の作業が容易で仕上りも優れています。
- ⑩ 廉価でしかもメタルの再融解も可能ですから極めて経済的です。
- ⑪ 焼成後の酸化物の色が灰白色です。
- ⑫ 口腔内で全く変色しません。
- ⑬ ワンピースでキャストできるので後ろをせずにメタルボンドと硬質レジン、あるいはフルクラウンとの組合せができます。
- ⑭ 铸造体からのガスの発生はほとんどありません。

歯研パイロン関連材料	●歯研パイロン…10g ●ゴールドボンディングエイジェント…2g ●ゴールドボンディングエイジェント希釈液…5cc ●黒鉛台…5枚セット ●PKろう(前ろう)…2g
スターターキット	●歯研パイロン…10g ●ゴールドボンディングエイジェント…1g ●ゴールドボンディングエイジェント希釈液…5cc ●黒鉛台…1枚 ●PKろう(前ろう)…0.5g

新 発 売



「歯研パイロン」研修会のお知らせ
 新製品「歯研パイロン」の優れた特性と技工の実業を
 ご紹介するため、研修会を開催しております。
 詳細については、下記へお問合せください。
 日本歯研工業株式会社
 「パイロン」研修会係
 03-492-0927



日本歯研工業株式会社

本 社：〒141 東京都品川区西五反田5-1-10 ☎03(492)0927(代)
 支 社：〒553 大阪市福島区海老江1-5-67 ☎06(458)7071(代)
 上野営業所：〒101 東京都千代田区外神田6-10-6
 吉岡歯材ビル2F ☎03(831)7031・7033